宮古市埋蔵文化財調査報告書3

Archaeological Researches in Miyako

宮古市遺跡分布調査報告書1

Distribution of Archaeological Research Sites in Miyako, Iwate Prefecture

1983

Photo. 1

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.

Photo. 1　　館山貝塚出土遺物

序　　文

宮古市内には現在約 260ケ所の遺跡があると言われており、この中には縄文時代の貝塚から中世の城館跡までの、当地方の歴史を解き明かす上で重要な遺跡が多数存在しております。これらの文化財を保存し、調査研究を行って宮古の歴史や文化の正しい理解を後世に伝承していくことが、私共の任務でもあります。

近年、宅地造成等の開発事業が増加し、市の近郊地域に所在する遺跡が破壊の危機にさらされることが多くなっており、憂慮しているところであります。本書はこれらの開発行為との調整を図り、遺跡保護の基礎的な資料である所在地や出土遺物を公開して、周知を進めるために編集したものです。刊行を機会に、文化財保護に対する深いご理解とご協力をお願いし序文といたします。

昭和58年３月

宮古市教育委員会

教育長　野口健造

例　　言

1．本書は昭和57年度の文化財保護事業として国庫及び県費の補助を受けて宮古市教育委員会が実施した、遺跡詳細分布調査の報告書である。

2．調査は宮古市教育委員会が主体となり、宮古市教育委員会事務局社会教育課主事武田将男が担当した。

3．調査に際し宮古市文化財保護審議会委員中嶋隆氏の協力を得た。また報告にあたり同氏所蔵の遺物・文献等を借用した。記して謝意を表する。

4．本書の編集は宮古市教育委員会が行い、執筆、図版作成、写真撮影は武田将男が担当した。また図版作成にあたり鈴木美奈子氏の協力があった。

5．磯鶏地区の調査及び表面採集資料については、宮古小学校生徒の吉田宏之、加賀光徳、両君の協力、提供があった。

6．航空写真の使用については、宮古市役所建設課の了承を得た。

7．挿図について

・土器実測図・拓影については3分の1、剝片石器については3分の2の縮尺とした。その他の実測図についてもスケールを付した。

・遺跡分布図については、遺跡範囲をスクリーントーンで表わし各地区ごとに略号と遺跡番号を付した。縮尺、スケールは各々図中に示した。

8．遺物表示について

・拓影遺物中、繊維を含む土器及び還元焔焼成の陶質土器を各々次のように表わした。

・敲打磨石の機能磨面はアミで示した。

繊維を含む土器　　還元焔焼成の陶質土器

9．調査体制について

宮古市教育委員会事務局	社会教育課長	藤田　利美
〃	社会教育係長	若狭健一郎
〃	社会教育主事	沼崎　幸夫

目　　次

序　文　　宮古市教育委員会
教育長　野口健造
例　言

目　次

I　分布調査の概要

1．調査の目的……1
2．調査対象地域……2
3．調査の方法……4
4．調査結果の活用……4

II　分布調査の結果

1．女遊戸地区（Onatsupe）……6
2．崎山地区（Sakiyama）……9
　2－1　崎山貝塚……11
　2－2　大付遺跡……17
　2－3　わたのは遺跡……23
3．鍬ヶ崎地区（Kuwagasaki）……32
　3－1　館山貝塚……34
4．小沢地区（Kozawa）……45
5．山口地区（Yamaguchi）……52
6．藤原・磯鶏地区（Fujiwara・Sokei）……60
7．赤前地区（Akamae）……69
8．重茂 館地区（Omoe－Tate）……75
9．千鶏・石浜地区（Chikei・Ishihama）……75

写 真 目 次

Photo. 1 館山貝塚出土遺物……内表紙
2 女遊戸地区遺物……8 page
3 女遊戸・崎山地区航空写真……8
4 崎山貝塚遠景……11
5 崎山貝塚航空写真……14
6 崎山貝塚遺物（土器）……14
7 〃 〃……15
8 〃 〃……15
9 崎山貝塚遺物（動物遺存体）……16
10 〃 〃……16
11 大付遺跡遠景……17
12 大付遺跡航空写真……18
13 大付遺跡遺物（土器）……20
14 大付遺跡遺物（骨角器）……20
15 大付遺跡遺物（石器・石刀・土偶）……21
16 大付遺跡出土人骨（16－1，16－2）……22
17 わたのは遺跡近景……23
18 わたのは遺跡遺物（18－1，18－2）……24
19 崎山地区遺物（Sa－05，12，24，25）……28
20 崎山地区Sa－03……29
21 〃 Sa－04……29
22 〃 Sa－05……30
23 〃 Sa－12……30
24 〃 Sa－14……31
25 〃 Sa－24……31
26 鍬ヶ崎地区航空写真……33
27 館山貝塚遠景……35
28 館山貝塚航空写真……35
29 館山貝塚遺物（土器）……39
30 〃 〃……39
31 〃 〃……40
32 館山貝塚遺物（動物遺存体）……40
33 〃 〃……41
34 館山貝塚遺物（骨角器）……41
35 館山貝塚遺物（完形土器他）……42
36 館山貝塚遺物（先史遺物帖より）……43
37 鍬ヶ崎地区Ku－01遺物……43
38 館山貝塚遺物（先史遺物帖より）……43
39 小沢地区航空写真……46

Photo. 40 小沢遺跡遺物（土器）……48 page
41 〃 〃 ……48
42 小沢地区遺物（土器・土偶他）……49
43 小沢大上遺跡 Ko－01……50
44 小沢遺跡 Ko－02……50
45 小沢石倉平遺跡 Ko－03……51
46 小沢人形鼻遺跡 Ko－04……51
47 小沢神籠石遺跡 Ko－05……52
48 山口地区航空写真……54
49 山口駒込遺跡遺物 Ya－05……56
50 拝殿峠遺跡 Ya－02……57
51 駒込遺跡 Ya－05……57
52 赤畑遺跡 Ya－07……58
53 高根遺跡 Ya－08……58
54 小平遺跡 Ya－09……59
55 Ya－11……59
56 藤原・磯鶏地区航空写真……62
57 磯鶏地区遺物……64
58 上村貝塚遺物……64
59 藤原・磯鶏地区遺物（完形土器）……65
60 キジヶ沢遺跡（Fu－03）……66
61 上村貝塚 （So－03）……66
62 磯鶏地区遺跡（So－04）……67
63 〃 （So－04）……67
64 蝦夷森貝塚 （So－04）……68
65 段ノ沢遺跡 （So－07）……68
66 赤前地区航空写真……71
67 Ak－03遺構検出状況（F－1）……73
68 Ak－03遺構検出状況（F－1）……73
69 Ak－03トレンチ（F－2，F－3）……74
70 Ak－03トレンチ（F－4）……74
71 重茂 館地区航空写真……77
72 重茂 館地区遺物……79
73 千鶏・石浜地区航空写真……81
74 千鶏・石浜地区遺物……83
75 〃 ……83
76 千鶏地区遺跡（Chi－02）……84
77 千鶏地区遺跡（Chi－03）……84
78 〃 （Chi－04）……85
79 石浜地区遺跡（Ishi－02）……85

挿 図 目 次

Fig. 1 分布調査対象地区……3 page
2 遺跡分布調査カードとData Card……5
3 女遊戸地区遺物（3－1石器、3－2土器）……6
4 女遊戸地区遺跡分布図……7
5 崎山地区遺跡分布図……10
6 崎山貝塚遺物……12
7 〃 ……13
8 大付遺跡遺物……18
9 〃 ……19
10 大付遺跡遺物（1979大付遺跡より）……22
11 わたのは遺跡出土石剣……23
12 わたのは遺跡遺物……23
13 〃 ……24
14 崎山地区遺物……26
15 〃 ……27
16 鍬ヶ崎地区遺跡分布図……32
17 館山貝塚地形図 ……34
18 館山貝塚遺物……36
19 〃 ……37
20 鍬ヶ崎地区遺物……38
21 館山貝塚出土骨角器（先史遺物帖より）……43
22 〃 （Prehistoric Fishing in Japanより）……44
23 小沢地区遺跡分布図……45
24 小沢地区遺物……47
25 山口地区遺跡分布図……53
26 山口地区遺物……55
27 藤原・磯鶏地区遺跡分布図……61
28 藤原・磯鶏地区遺物……63
29 Ak－03トレンチ設定図……69
30 赤前地区遺跡分布図……70
31 赤前地区遺物（Ak－04）……72
32 重茂 館地区遺跡分布図……76
33 重茂 館地区遺物……78
34 千鶏・石浜地区遺跡分布図……80
35 千鶏・石浜地区遺物……82

Ⅰ　分布調査の概要

1．調査の目的

宮古市には現在 260ヵ所の遺跡が確認されている。近年、近郊地域における宅地造成等の開発行為が増加しつつあり、今後もこの傾向は続くものと考えられる。当市の地理的環境からいって海岸段丘上、あるいは小河川に区切られた台地上に多くの遺跡が立地しているが、これらの地域はまた開発行為の対象としても好条件を備えた地域でもある。さらに採石や土砂採取等で郊外地域にまで開発の手が及ぶようになってきた。このような状況の中で、埋蔵文化財保護について多様性と長期的な方向性を持って対応することが必要になってきている。つまり歴史的文化的な遺産としての文化財を、如何にして多くの人に知らしめ理解してもらうか、また如何にしてより良いかたちで後世に伝え残していくかを具体的に思考し、実践していくことが急務となっている。

土地開発の増加

遺跡保存の対応

歴史の証左あるいは歴史的環境という性質をもつ「遺跡」に対する保護・活用を考えるとき、第一義的には遺跡の調査が計画性と目的性を持ち、地域史解明のために行われるべきものであること、そしてその成果が十分に地域住民に還元される必要性があると考えられる。文献的に空白な時期において、遺跡の発堀調査は歴史的事実を提示し得る唯一の手段となるが、調査の実施にあたり環境的あるいは時期的な特定を行いこれらの諸相を検討することや、限定された地域内での集落や生産の変遷を探求するなど、ある明確な学術的目的性を持った上で調査は行われるべきものであり、これによって有機的な関連をもつ歴史の叙述が可能となるのである。

遺跡保護と調査

学術的目的性

このような地域史解明という長期的・将来的な一連の調査構想の第一階梯として、遺跡の分布調査が位置付けられる。つまり遺跡の所在を確認し、表面採集資料等からその概要を把握することは、調査の計画段階で学術的目的性を持つために、欠くべからざるデータとなるものであり、多様な目的性を考える上で重要な資料となる。従って地域史解明のために成される一連の調査の第一階梯として位置付けられる遺跡分布調査は、考古学的調査の中で重要かつ大きなウエイトを占めるものと考えられる。

分布調査の意義

また一方、増加する開発行為に対する具体的な遺跡保護のあり方として事前協議等が行われているが、この際に保護する側がその対象である遺跡に関して、できる限り詳細かつ具体的なデータを持っていることが必要であり、前提条件となる。これについては、後述するように、地表観察における分布調査結果という限界性をふまえてのデータということになるが、現段階での遺跡保護の基礎的な資料として意義づけられるものである。

遺跡保護の基礎資料

このような考え方に立ち、遺跡所在の周知と埋蔵文化財の正しい理解を深めることを目的として調査を実施し、報告刊行するものである。

2．調査対象地域

分布調査は、宅地造成等の開発行為の予想される市街・近郊地域を選定して行った。また郊外においても緊急に遺跡群の実体を把握する必要性のある地域についてはこの対象とした。

Table 1　分布調査対象地域

図番号	地区名	略称	遺跡数	図番号	地区名	略称	遺跡数
1	女遊戸地区	On	破壊	5	藤原地区	Fu	4
2	崎山地区	Sa	27		磯鶏地区	So	8
3	鍬ヶ崎地区	Ku	7	6	赤前地区	Ak	6
4	小沢地区	Ko	5	7	重茂・館地区	Ot	4
	山口地区	Ya	12	8	千鶏地区	Chi	5
					石浜地区	Ishi	4
						計	82

遺跡の略号は、地区名の略称に地区内の通し番号を付して表わした。たとえば館山貝塚は鍬ヶ崎地区でKu、これに地区内の遺跡番号03を付してKu－03とした。また遺跡名称は小字名または旧来からの呼称を用いることとしたが、適切な固有名称が無い場合は略号だけで表記することとした。

3．調査の方法と結果

現地踏査

分布調査は、現地踏査による遺物分布状況の確認、及び微地形の観察等を主に行った。また赤前地区の一部においては試掘をし、遺構の確認まで行った。また現地踏査による表面採集資料を補い遺跡の性格をさらに裏付けるため、過去に収集された遺物等についても資料化して報告した。これらは個人所蔵が多く、本来所蔵者において資料提示、公表されることが望ましいが、現在これに至っておらず今回の調査にあたり遺物等の借用をうけ資料の提示を行った。

現地踏査においては、遺跡の自然環境つまり水源、日照、気象条件、傾斜度、食料確保地の可能性などを、微地形の観察から確認、推定した。これらの要素は、遺跡の範囲を推定する際の重要データであり、遺跡の立地条件の共通性あるいは相異性を導き出すための観察事項である。これらの観察には地形図の他に、航空写真の実体視による地形確認を行い、報告においても航空写真を多く提示した。また遺跡に散布する遺物の検討、またかつて実施された調査資料や表採資料のデーターを集成し、遺跡の存続時期、あるいは時期による占地の変遷過程等、遺跡の内容の検討を行った。

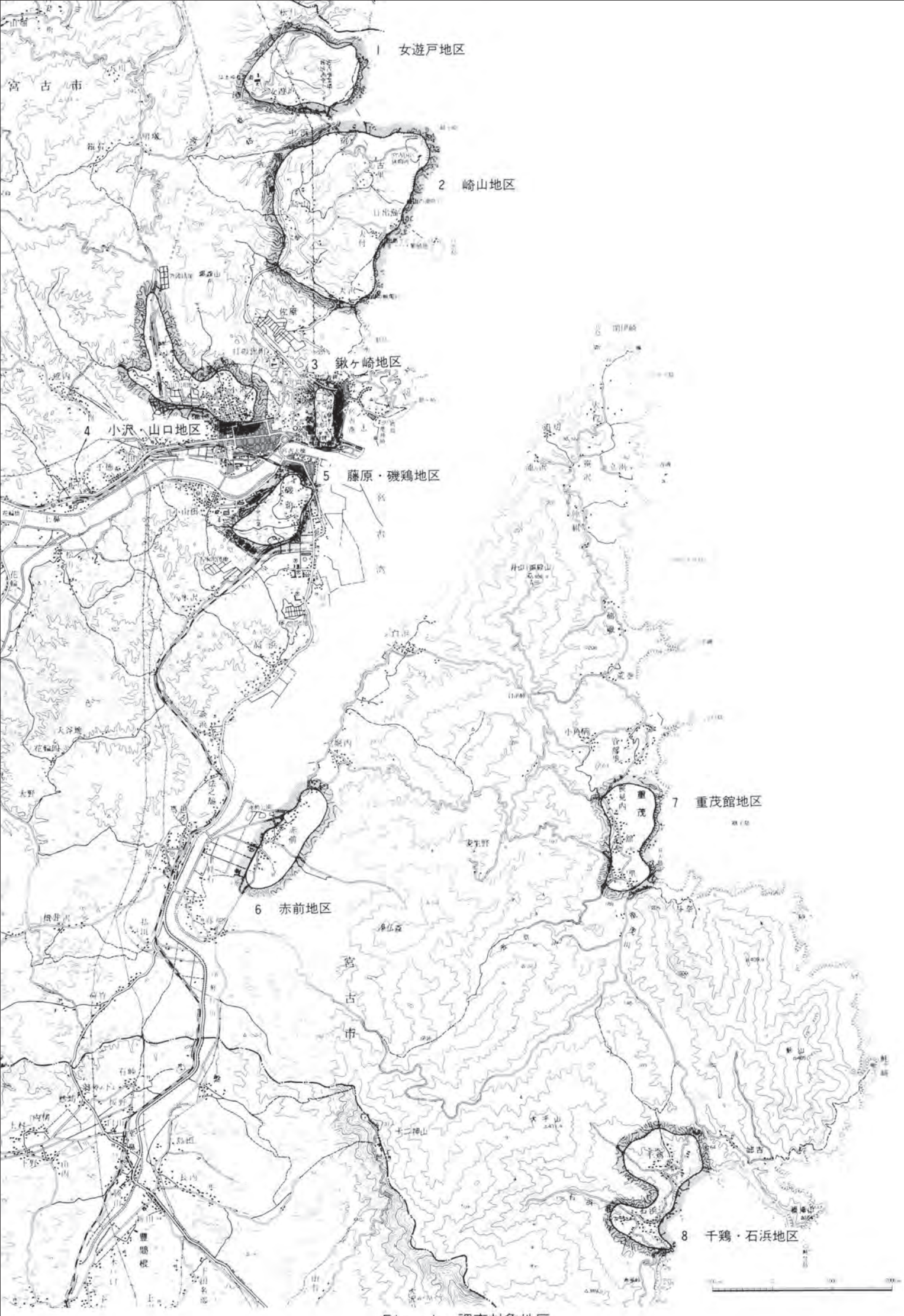

1　女遊戸地区
2　崎山地区
3　鍬ヶ崎地区
4　小沢・山口地区
5　藤原・磯鶏地区
6　赤前地区
7　重茂館地区
8　千鶏・石浜地区
宮古市
宮古市

Fig. 1　調査対象地区

調査データの限界性

このような方法で、分布調査対象地域内の遺跡存在の可能性に関するデータ、および表面採集資料による遺跡の概要に関するデータを収集・検討し報告するわけであるが、これらの結果はあくまでも現段階での調査結果であり、今後資料の増加また分布調査の方法や手段のさらなる詳細化により調査結果の量的・質的な付加が考えられる。特に遺跡の範囲に関しては、地中に埋蔵されている文化財という遺跡の性格と、これに対して地表における観察結果という限界性とに起因する不確定性が含まれる。つまり現地踏査で微地形の観察が困難な地域や遺物の存否を確認できない山林、原野等の未耕作地域については、遺跡の有無について言及することは不可能である。また発掘調査の実例から観て散布遺物の極めて少ない場所であっても遺構が存在することもある。したがって確実に遺跡存在の有無を決定するには、表土を取り除き土中の観察データを提示できる手段が必要となってくる。開発事業等の個々の事例において、上記のような不確定性の高い地域では各々現地確認調査による詳細な自然環境要素の観察と、この結果の勘案により試掘調査の実施が必要となってくる。

4．調査結果の活用

結果の公表

調査結果は、報告書として公表すると共に、各遺跡ごとの分布調査カード、データカードを作成し、これらをファイリングした。調査研究あるいは開発行為等の協議などで遺跡に関する資料が必要な際は、すぐに提示できるようにした。

資料活用の円滑化

分布調査カード及びデータカードはA－4版としバーチカルファイリングシステムにより整理した。分布調査カードには遺跡の概要や表面採集遺物について記述し、これに伴う地形図、写真、遺物実測図等をデータカードにまとめ、これを一括してファイリングした。また今後の調査や遺跡パトロールで資料が増えた場合もファイルにデータを追加できるように配慮した。

参考文献

1911年	中　嶋　吉兵衛	先史遺物帖　（中嶋隆氏所蔵）
1911	岸　上　鎌　吉	Prehistoric Fishing in Japan　（中嶋隆氏所蔵）
1961	岩　手　県	岩　手　県　史
1966	大　井　晴　男	野外考古学　64～70ｐ
1966	文化庁文化財保護部	発掘調査の手引き　14～18ｐ
1976	奈良国立埋蔵文化財研究所 埋蔵文化財センター	埋蔵文化財ニュース第３号
1976	〃	〃　第５号
1977	市　原　寿　文	「考古学的遺物の探究」 地方史マニュアル６
1977	小　宮　恒　雄	「遺跡と分布調査」 地方史マニュアル７
1977	甘　粕　　健	埋蔵文化財のはなし　59～68ｐ
1979	熊谷常正・小田野哲憲	大付遺跡発掘調査報告書
1982	水沢市教育委員会	慶徳遺跡群詳細分布調査報告書
1980		日本城郭大系２

Fig. 2－1
遺跡分布調査カード

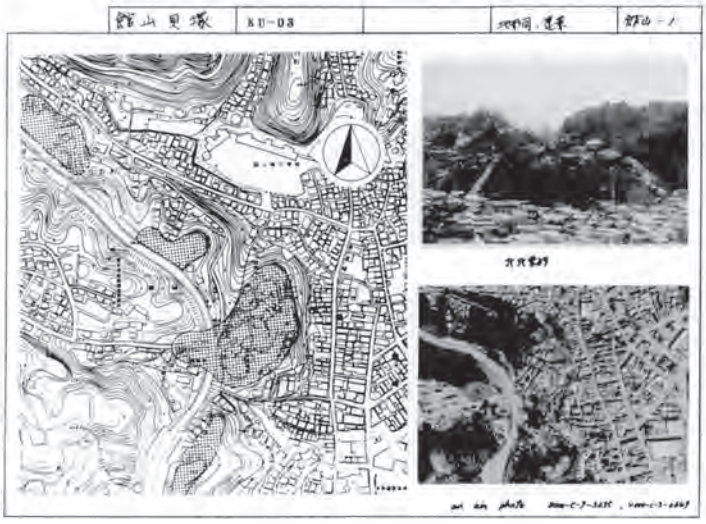


Fig. 2－2
Data Card
地形図写真等のデータ

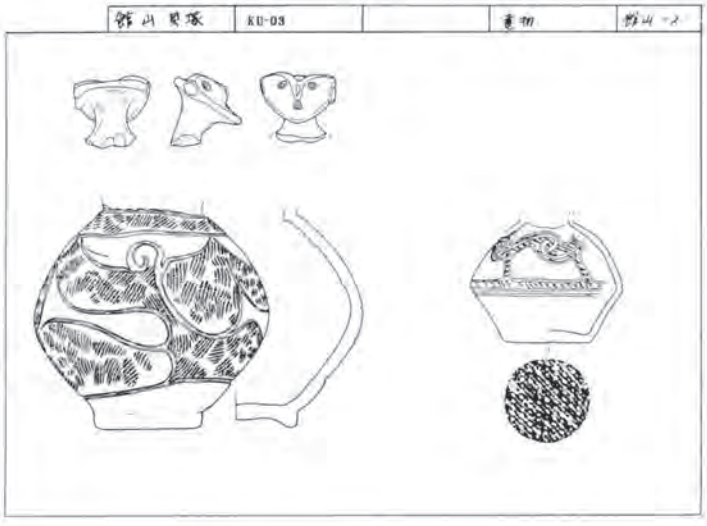


Fig. 2－3
Data Card
遺物等のデータ

Fig. 2 遺跡分布調査カードとData Card

II　分布調査の結果

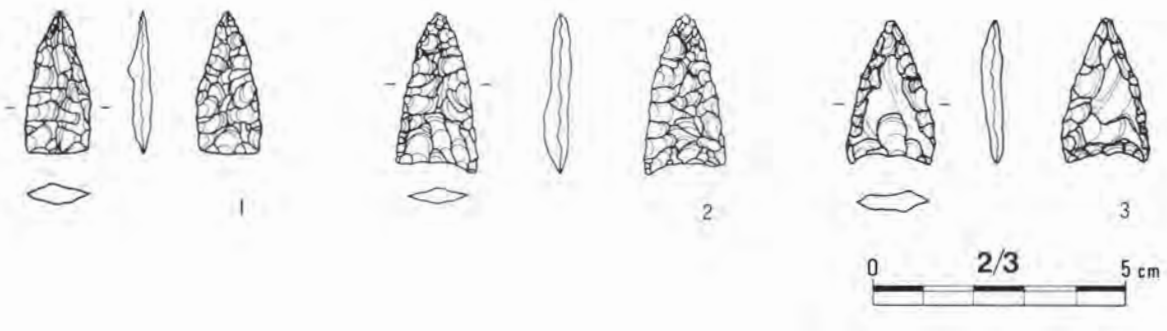
1　女遊戸地区（Onatsupe）

位　　置

女遊戸地区は、閉伊川河口より北へ約７kmの海岸段丘の台地で南は女遊戸川、北は松月の沢にはさまれた地区である。標高ほぼ100ｍ～120ｍの台地上に女遊戸遺跡群が存在したが、昭和47年ゴルフ場造成のため未調査のまま破壊された。当時の新聞報道によると、日本考古学会会員の田村忠博氏が、国立公園内の保安林が伐採されたとの知らせを受け、同遺跡群を調べたところ、10カ所のうち５カ所までが完全に破壊されていたというものである。（註１）地元研究者の強い訴えかけがあったにもかかわらず、未調査のままゴルフ場の造成によりほぼ全壊してしまったのである。当時県下では新幹線、高速道等の事業に対して埋蔵文化財の調査が実施されようとしていたが、沿岸部ではこのような保護行政の立ち遅れを示す事例が見られた。また国道45号線等の道路網整備や観光開発に伴う施設の建設に伴い破壊されてきた遺跡も多数ある。再現性を許さない遺跡故に開発行為の際には十分な保存措置が必要と考えられる。

女遊戸遺跡群からは、かつてFig．３に示す遺物が出土している。いずれも表面採集資料であるが、縄文時代早期から後期と考えられる資料が採集されている。Fig．３－２の４は貝殻腹縁庄痕文が施文されている。５～８は胎土に繊維が含まれている。９～13は縄文時代中期の大木７～８式期のものである。また14は小破片ではあるが、薄手無文で、土器外面に朱が塗ってあるのが観察された。15は小形土器の底部の一部で、撚りのきつい縄文が施されている。

（註１）　昭和47年６月15日岩手日報



Fig．３－１　　女遊戸地区遺物

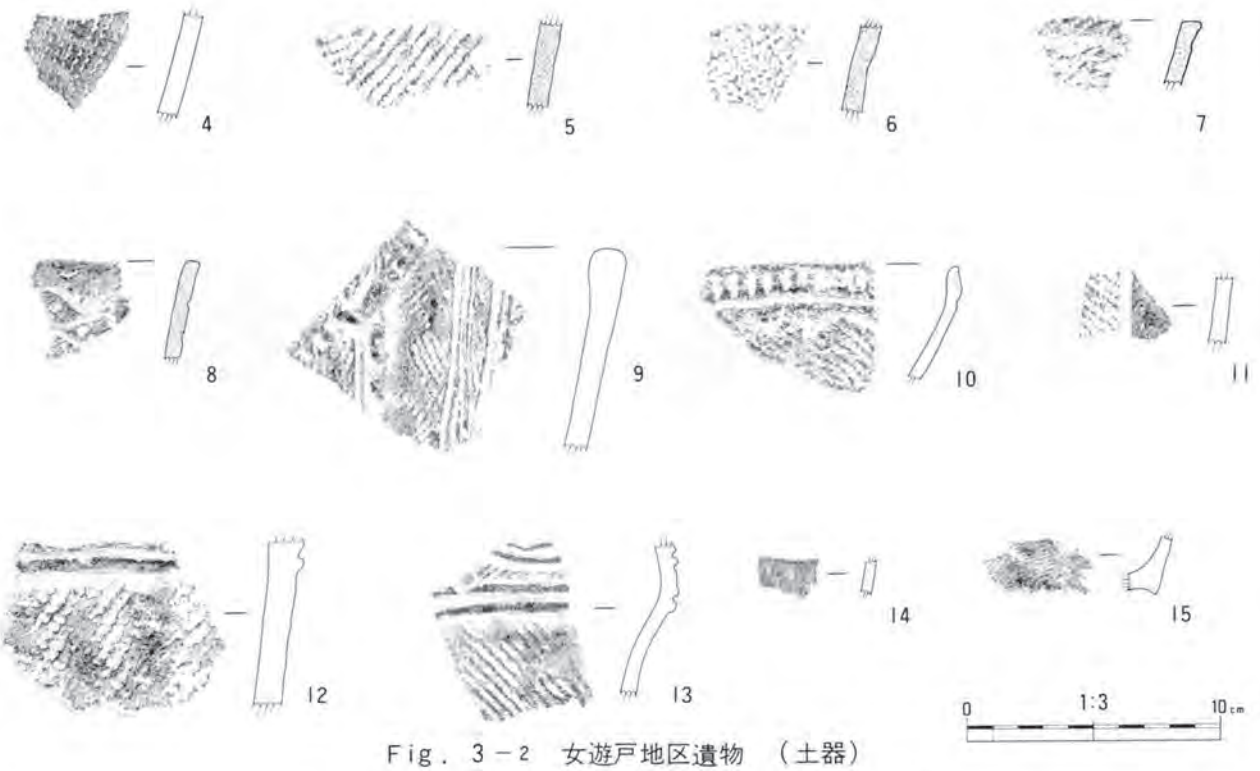


Fig. 3－2　女遊戸地区遺物　（土器）

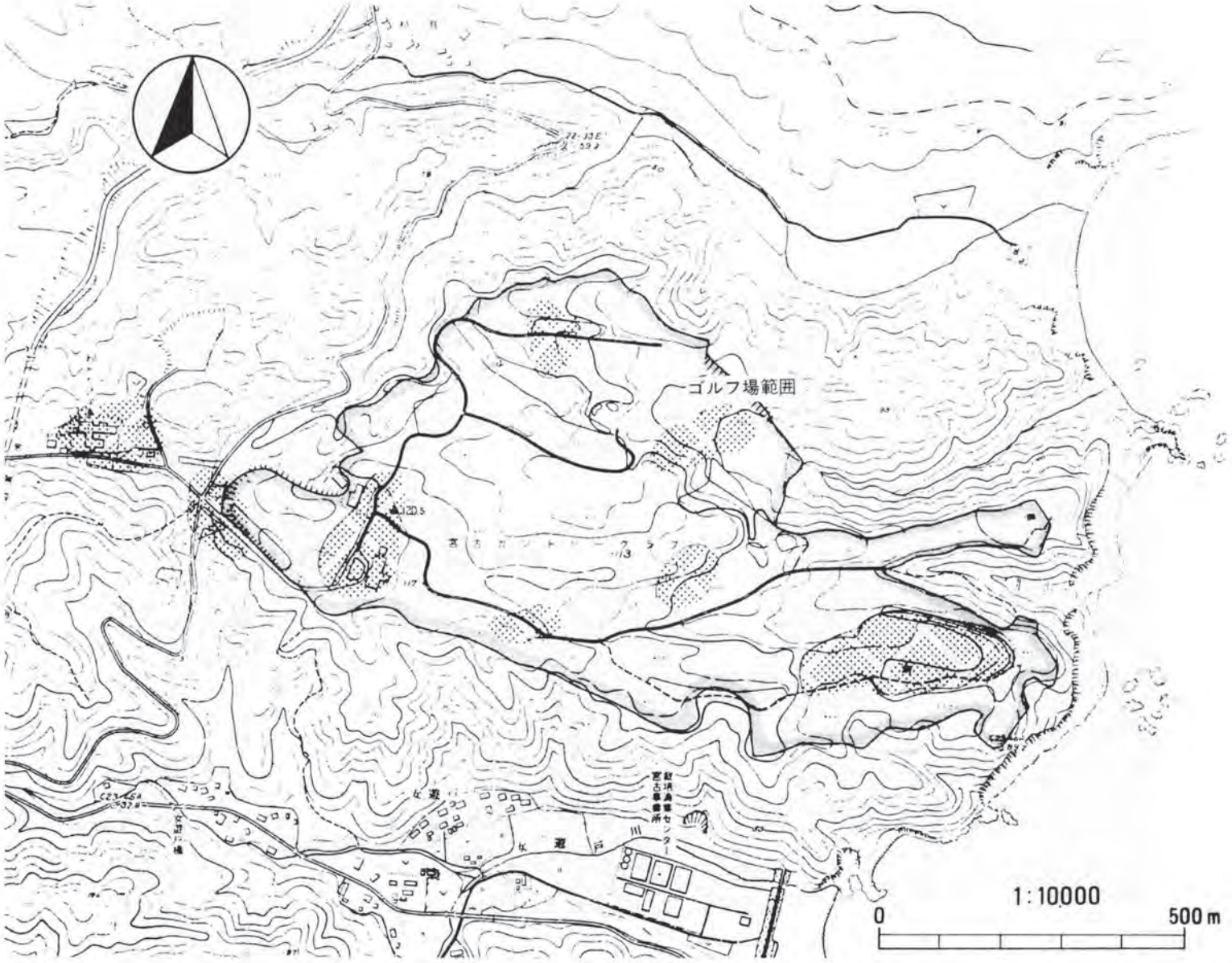
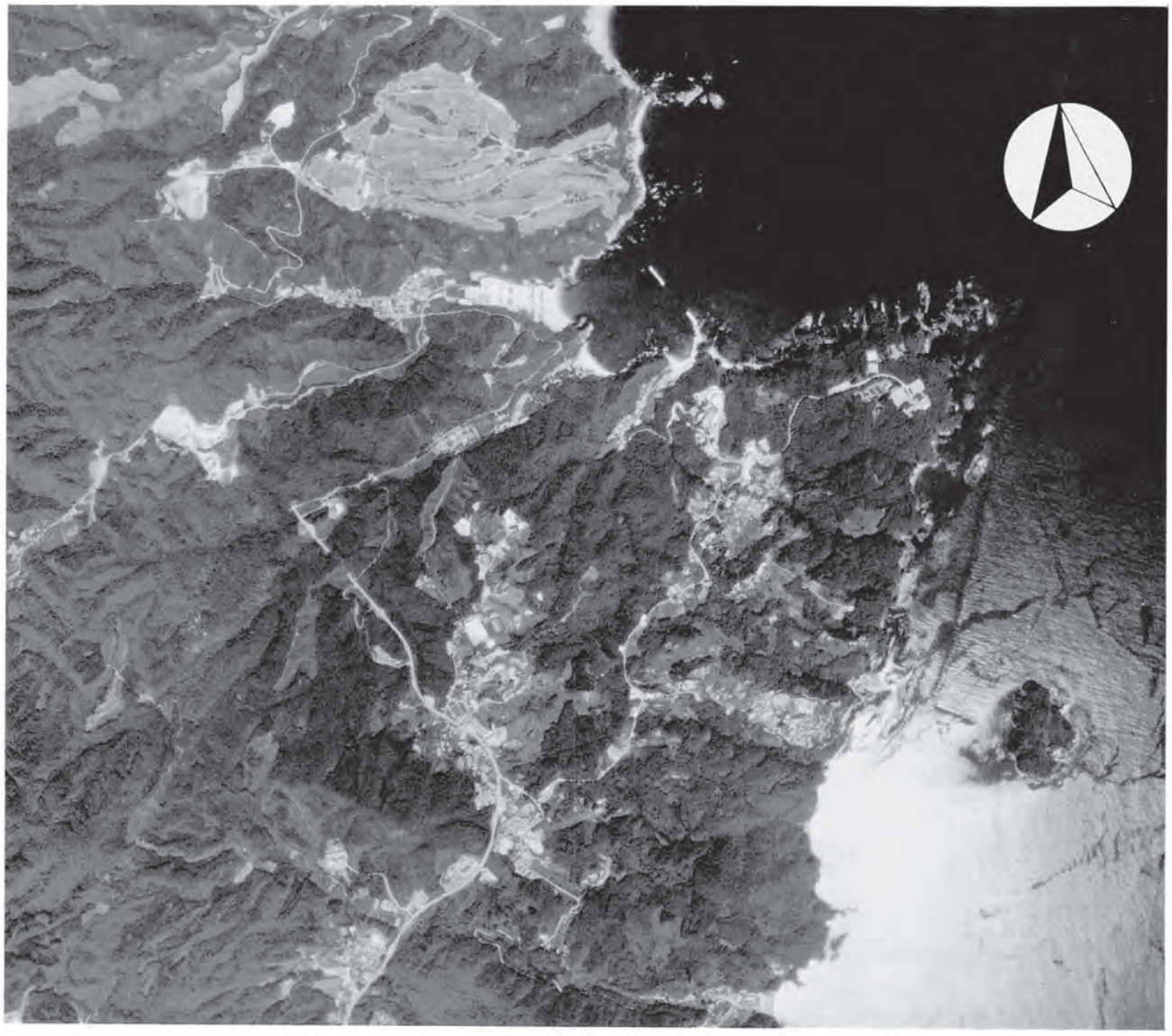


Fig. 4　女遊戸地区遺跡分布図（Onatsupe）

Photo．2　女遊戸地区遺物



Photo．3　女遊戸・崎山地区（Onatsupe，Sakiyama）

2　崎山地区（Sakiyama）

位　置

崎山地区は、女遊戸地区の南、中の浜から大沢までの範囲で、遺跡はほとんど約80ｍ～120 ｍの海岸段丘上に存在する。今回同地区で確認した遺跡は27カ所に至った。この中には古くから知られる崎山貝塚、また昭和54年の発掘調査で縄文時代晩期の屈葬人骨が検出された大付遺跡等がある。

崎山地区は古くから遺跡数の多い地域として知られ、地元研究者による遺物採集がされてきており、遺跡の所在は比較的明らかにされてきたが、国道45号線の道路開削により破壊された遺跡も少くない。

同地区内では耕作地として利用されている部分も少くないが、山林も多くの部分を占めており、この地域については遺跡所在の有無を確認できる資料がないため空白となっているが、地形等の自然環境から観て遺跡が存在する可能性の高い地域もある。

時　期

崎山地区の遺跡を概観してみると、時期的には縄文時代早期から晩期までの各時期の遺跡が存在し、それ以後の弥生式土器、土師器、須恵器は今のところ出土していない。縄文時代においても早期～中期の遺跡が主体を占め、後、晩期の遺跡は比較的少い。

立　地

遺跡の立地から見ると、海岸にせまる段丘崖に近い地域では、小さな沢にはさまれた台地上に所在することが多く、海岸から 800～ 1,000ｍほどはなれた地域では台地上のみならず、水源の奥で、尾根の下にあたる洞地形の部分にも遺跡が見られる。これらの地域と遺跡の存続時期との関連は、海岸に近いＳａ－06、Ｓａ－11には後期・晩期の遺物が見られ、海岸から比較的離れた地域ではこれらの時期の遺物は少い。海岸に近い台地上の遺跡の一部においては、縄文時代の後・晩期まで存続していたことが、現在までの採集資料で言及することができる。しかしこのことが崎山地区での一般的な傾向であるかどうかは、今後の資料の増加を待って判断されるべきものと考える。

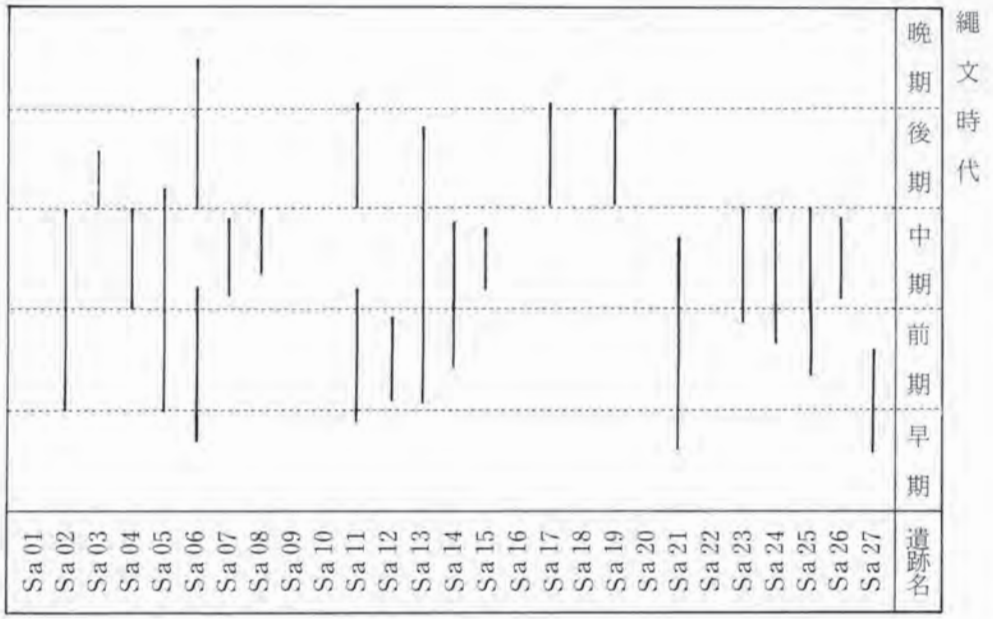


Table 2
崎山地区の遺跡と時期

Fig. 5　崎山地区遺跡分布図（Sakiyama）

Sa－21　崎山貝塚　　Sa－06　大付遺跡　　Sa－11　わたのは遺跡
Sa－12　潮吹き遺跡　　Sa－05　白石遺跡　　Sa－14　古里遺跡

2－1　崎山貝塚　Sa－21（Shell Mounds of Sakiyama）

位　置

崎山貝塚は、標高約 120ｍ、海岸線より約1.6㎞入った位置にある。館ヶ森から北東にはり出す台地に立地し、５～10ｍ底い台地下は現在水田として利用されており、土地利用の違いから台地部分が明良に判別できる。台地の基部は国道45号線と工場等により破壊されているが、中央部から先端にかけては畑や原野として現状保存されている。貝塚は南北両斜面に存在していると言われ、ここからは多くの自然遺物が採集されている。また北面に作られた農道のカッテングでは住居跡が見られ土器等も多数出土している。

地　形

遺　物

現在まで採集された遺物から観ると、縄文時代早期・前期・中期に営まれた貝塚と考えられる。南面と北面において時期的な占地の違いがあるかどうかは、今のところ明確ではない。

Ｆｉｇ．６の１，７は尖底土器の底部である。１は胎土に繊維を含み、外面に縄文、内面は成形時の指頭痕が明良である。７は無文で繊維を含まない。２～６，８～10，12,13は胎土に繊維を含んでいる。４は内面に条痕が見られ、外面には縄文が施されている。14は内外面共に条痕が見られる。縄文中期の遺物は中葉の大木８式のものまで見られ、現在のところこの時期が遺跡の下限と考えられる。

Ｐｈｏｔｏ．９，10は貝塚より出土した動物遺存体と骨製品である。陸性の動物としては、シカが見られる。また海性の動物では鯨・鮪・鯛等が出土している。この他に貝類としては、アサリ、ウバガイ、ホタテ、マガキ、イガイ等も出土したと言われる。(註１)

(註１) 1981年　中嶋　隆　　原始古代の漁労　宮古市史　漁業・交易　ｐ36～51

Ｐｈｏｔｏ．４　崎山貝塚遠景（南西より）

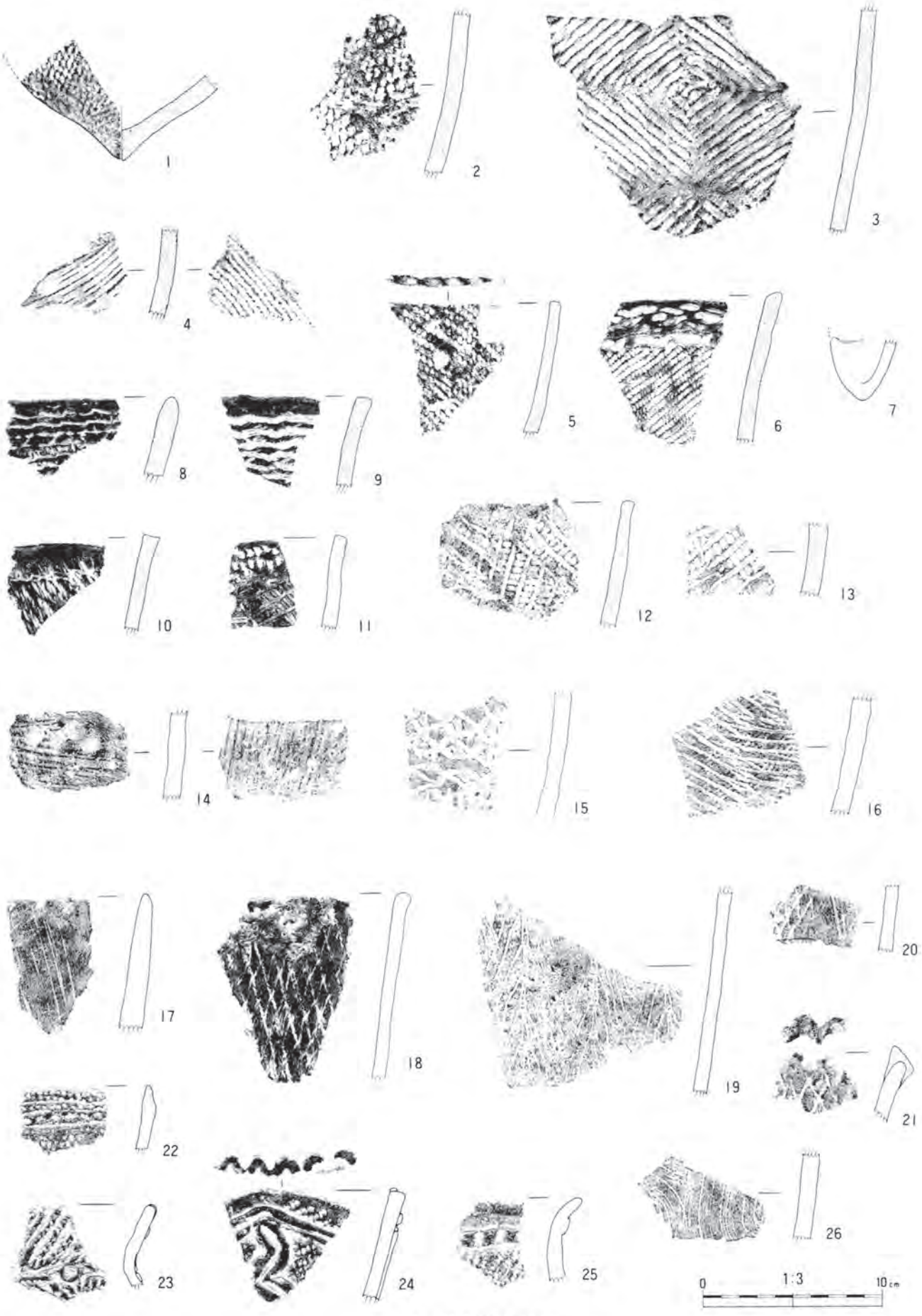

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
0
1:3
10cm

Fig. 6 崎山貝塚遺物

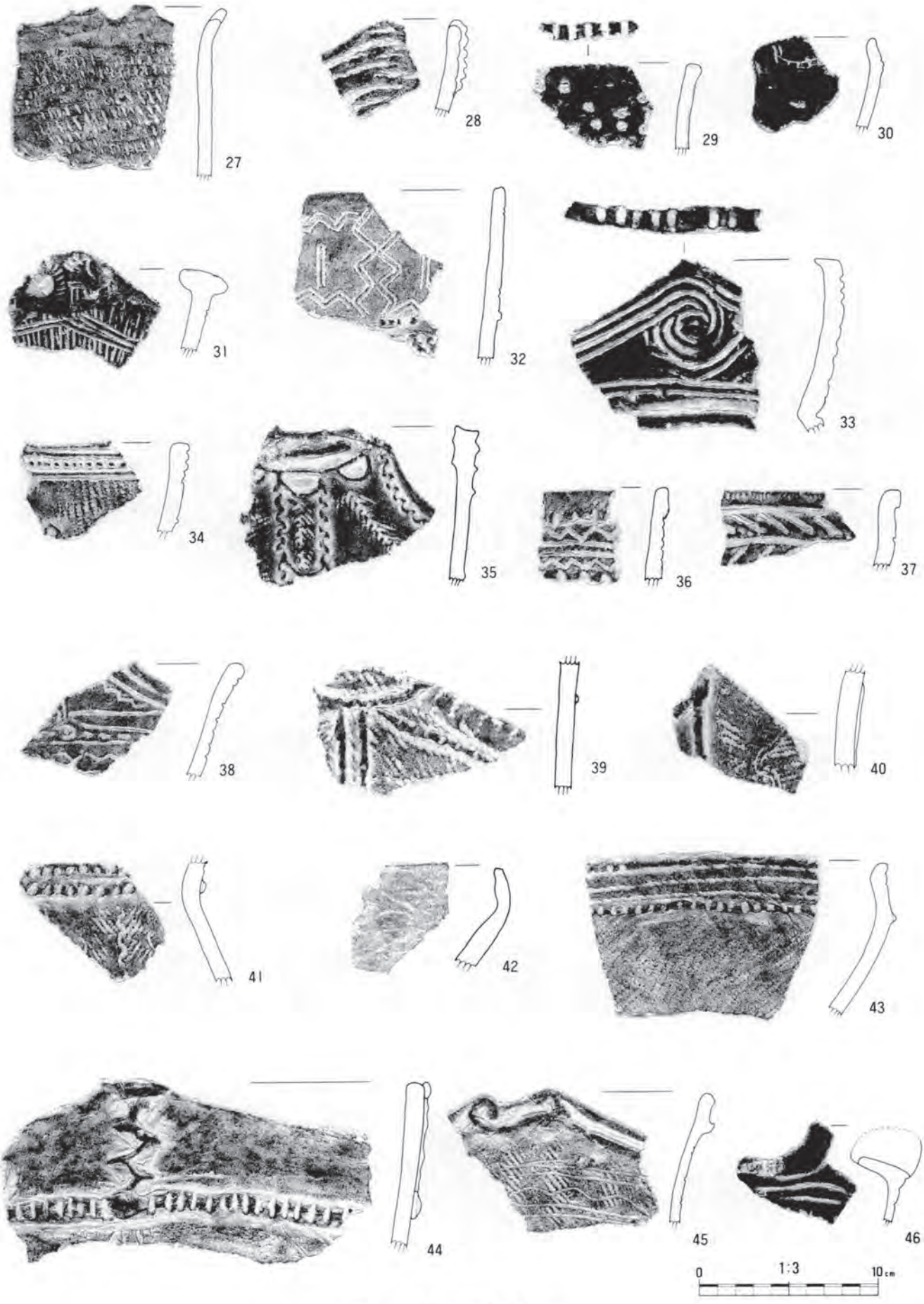


Fig. 7　崎山貝塚遺物

Photo．5　崎山貝塚（Sakiyama）

Photo．6　崎山貝塚遺物

Photo．7　崎山貝塚遺物

Photo．8　崎山貝塚遺物

Photo. 9　崎山貝塚遺物

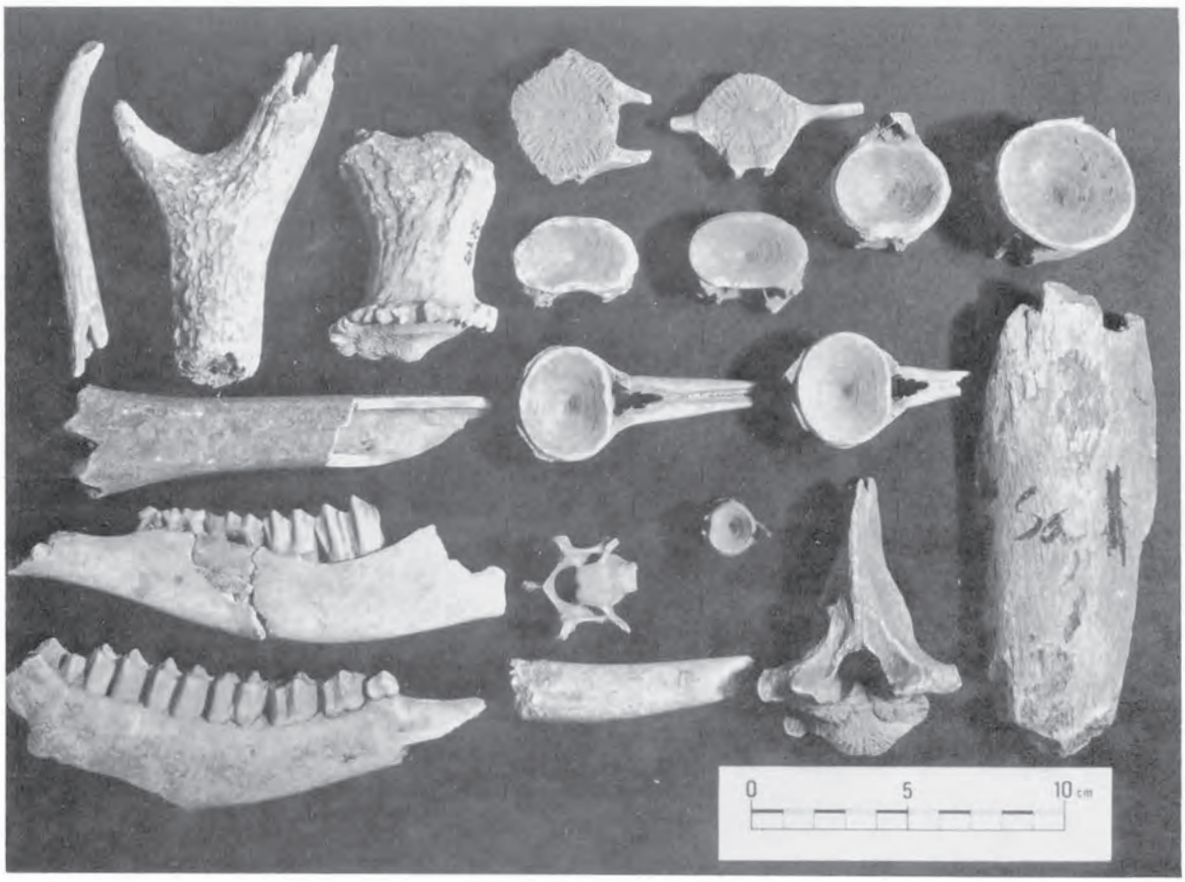


Photo. 10　崎山貝塚遺物

2－2　大付遺跡　Sa－06（Ōzuke）

立　地

大付遺跡は、海に面した標高70～90ｍの段丘上に所在する。南北は小さな沢によって区切られており、独立してはり出した台地状を呈する。台地先端部は、現在大付部落の家屋がたてこんできておりかなり破壊が進んでいる。昭和54年、宅地造成に伴う緊急調査が行われ、縄文時代晩期の屈葬人骨が検出されている。台地の一部に墓域を有する可能性も考えられる。

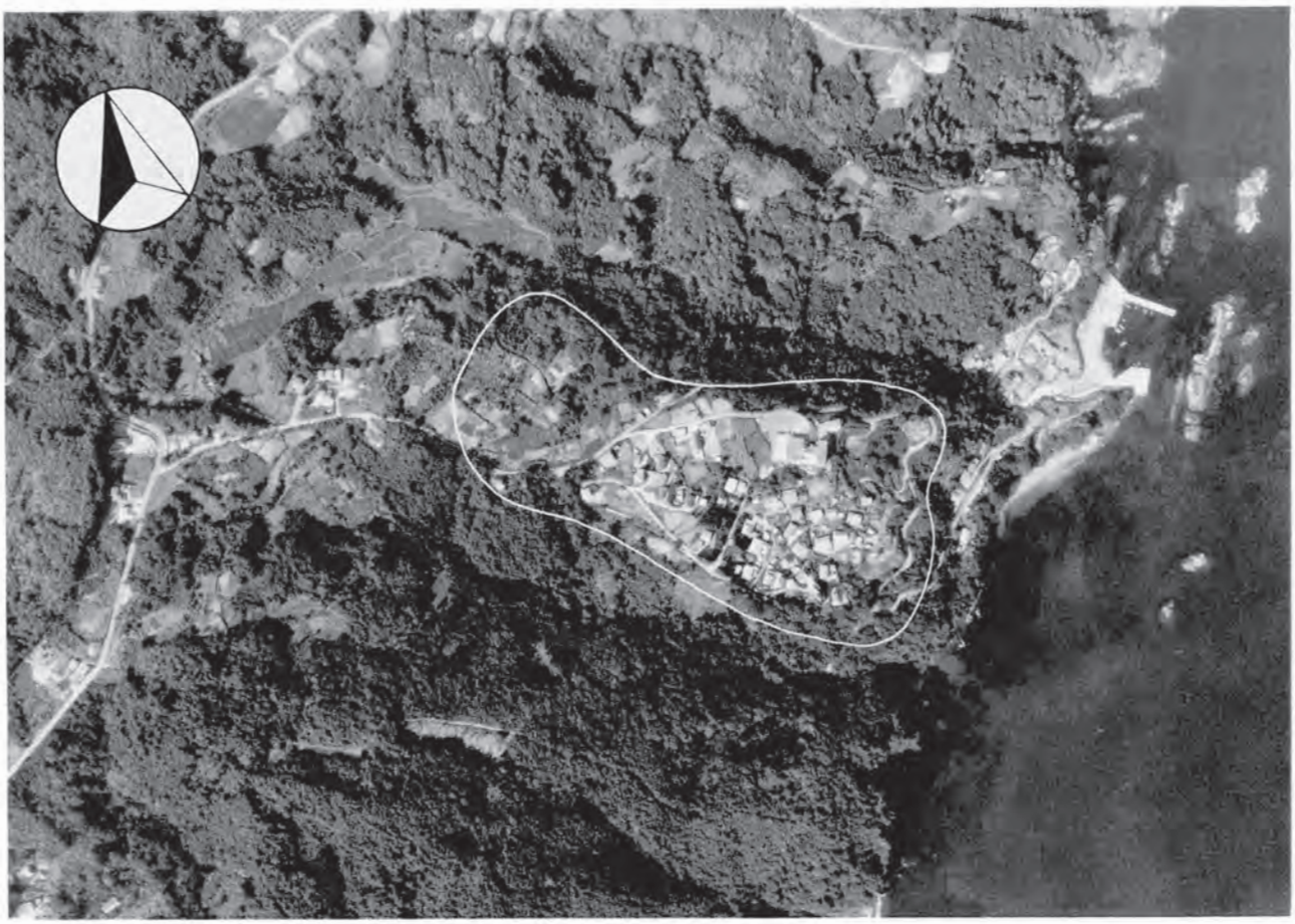
遺　物

昭和54年の発掘調査資料と今回の分布調査による資料から、遺跡の存続は縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期に亘ると考えられる。Fig. 8の4は内外面共に縄文が施されている。その他胎土に繊維を含むもの、また中期初頭や後期と考えられる土器も出土している。昭和54年の調査では縄文時代後期及び晩期の遺物が主体を占めている。

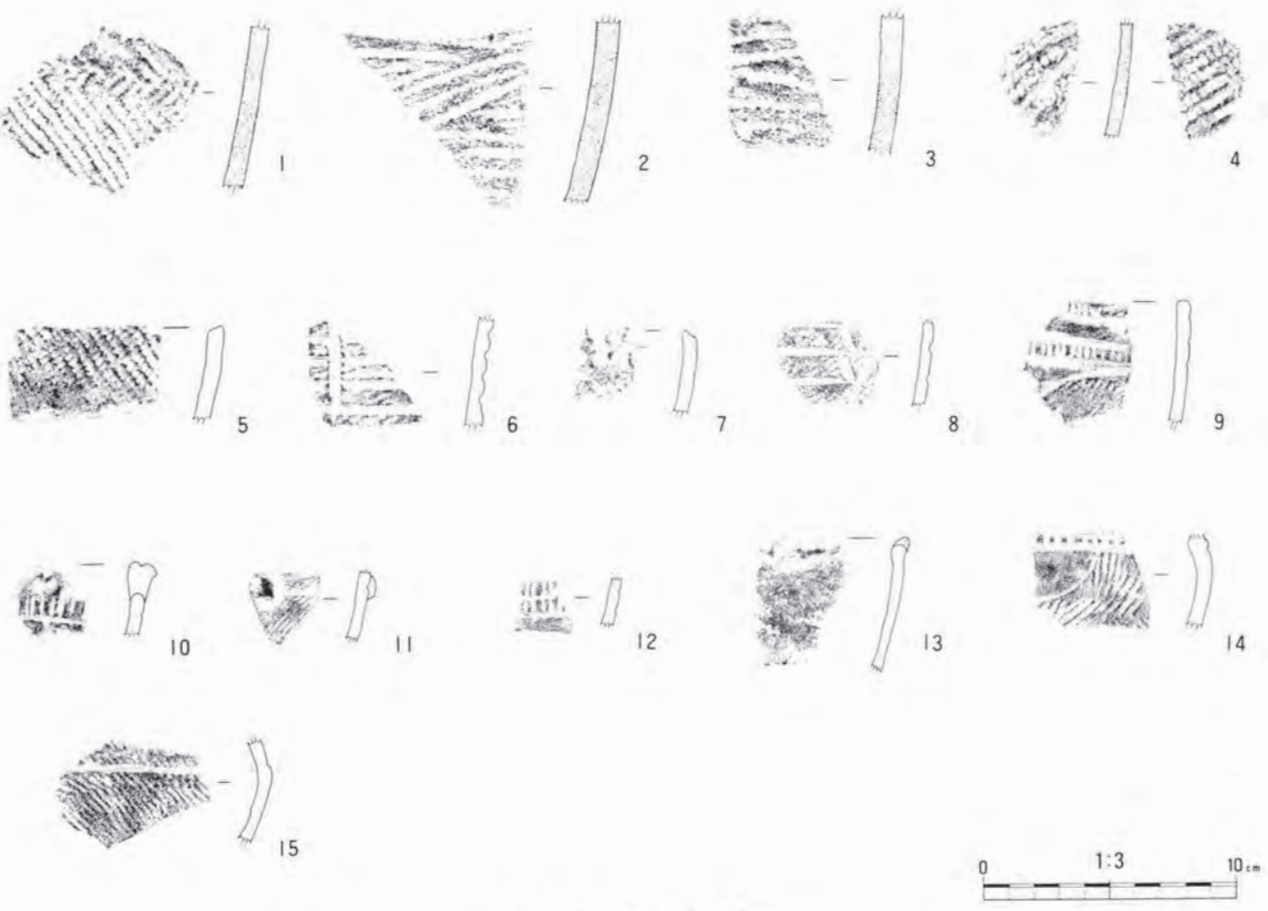
その他、石棒、石刀および晩期の所産と考えられる土偶が表面採集されている。また石器では、片面に自然面を残す打製の石器が多数採集されている。この石器については、54年の調査報告書にも、約20点報告されており考察もなされているもので、今のところ沿岸部だけに出土例を認めるもののようである。最近宮城県の縄文後期の田柄貝塚から多数の出土例があったと聞く。(註1）また骨角器や貝輪なども出土している。(Photo.14　中嶋隆氏蔵)

(註1）宮城県教育庁文化財保護課太田昭夫・手塚　均 両氏より御教示いただく。

Photo. 11　大付遺跡遠景



Photo．12　大付遺跡（Ōzuke）



Fig．8　大付遺跡遺物

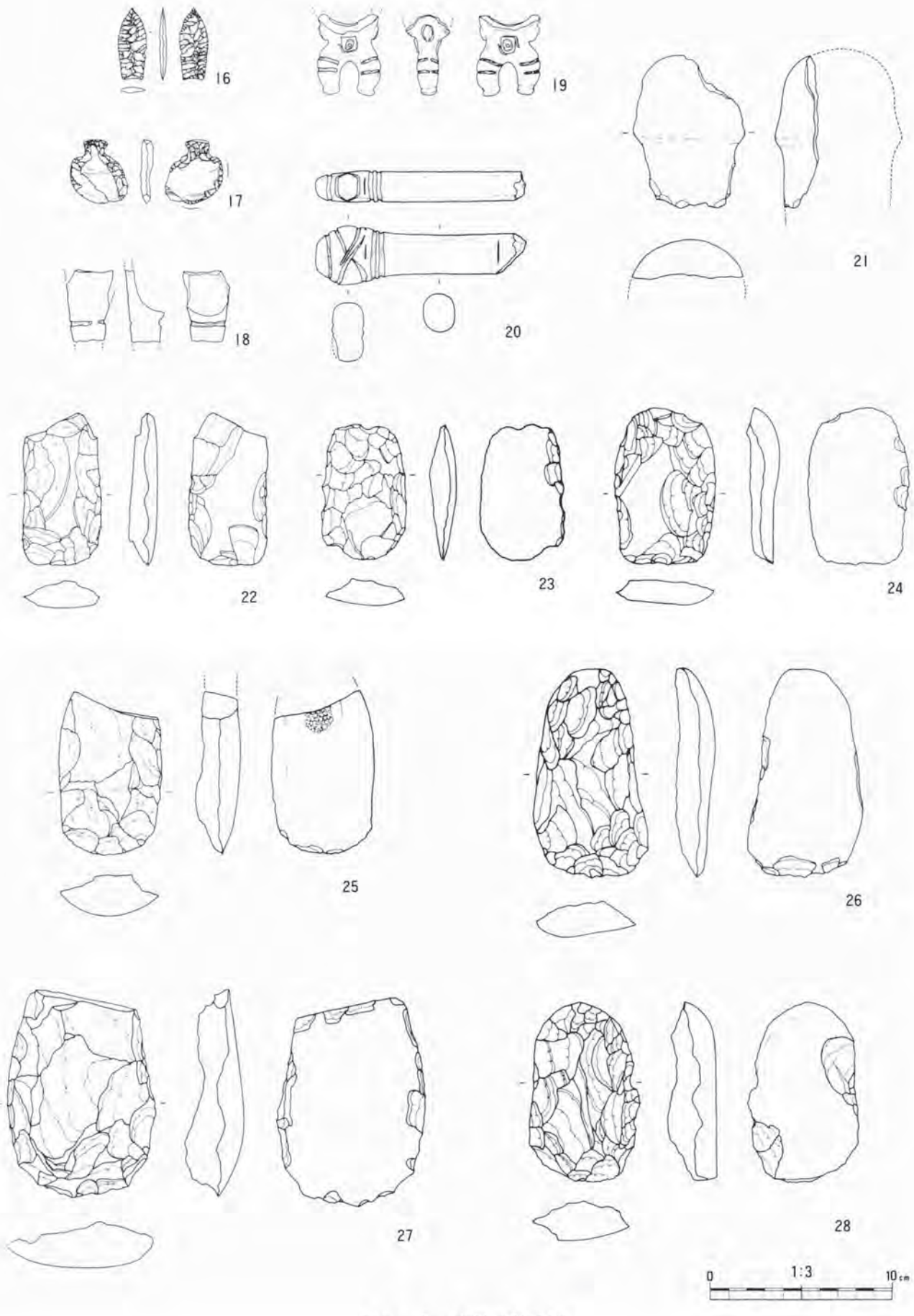
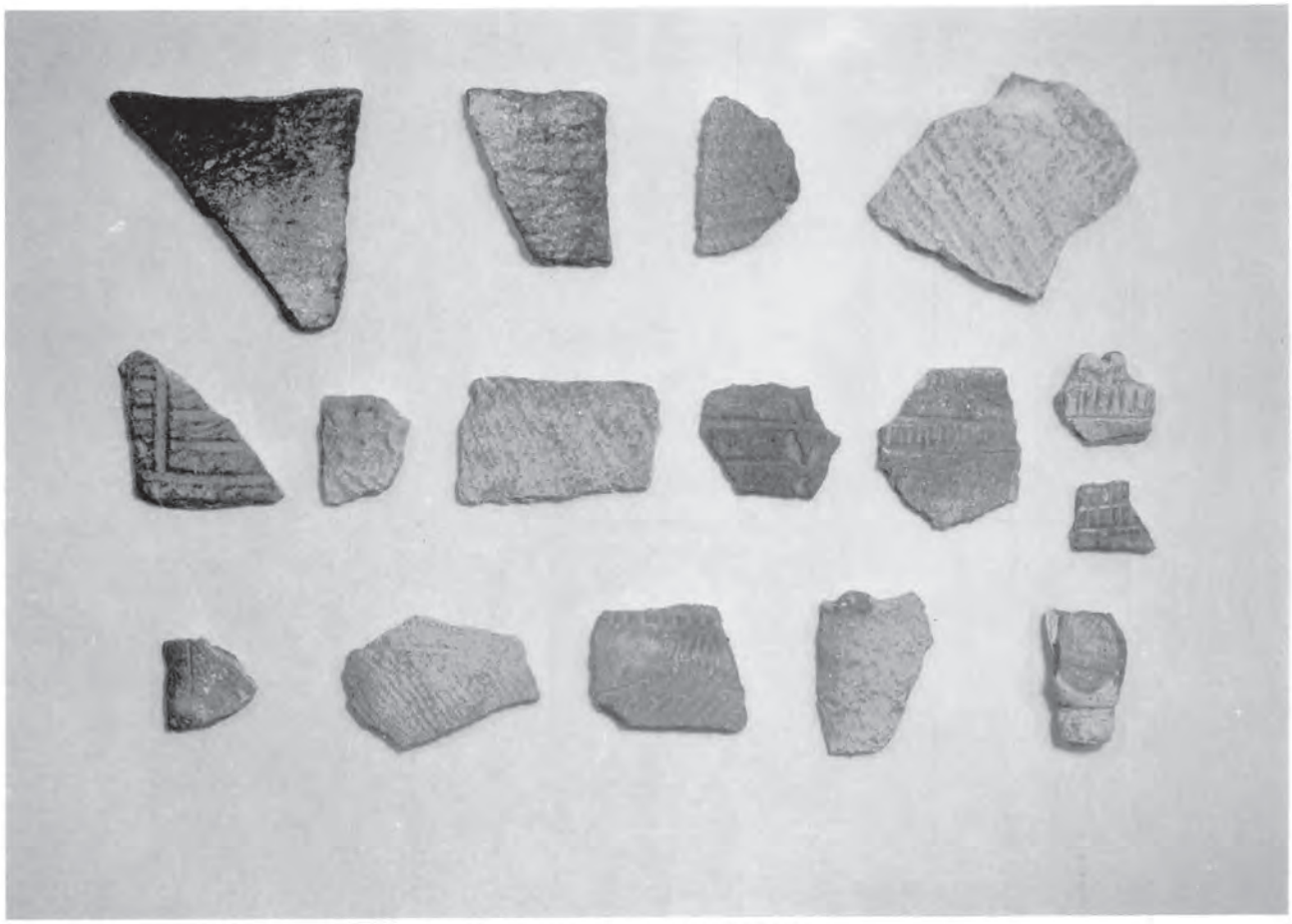


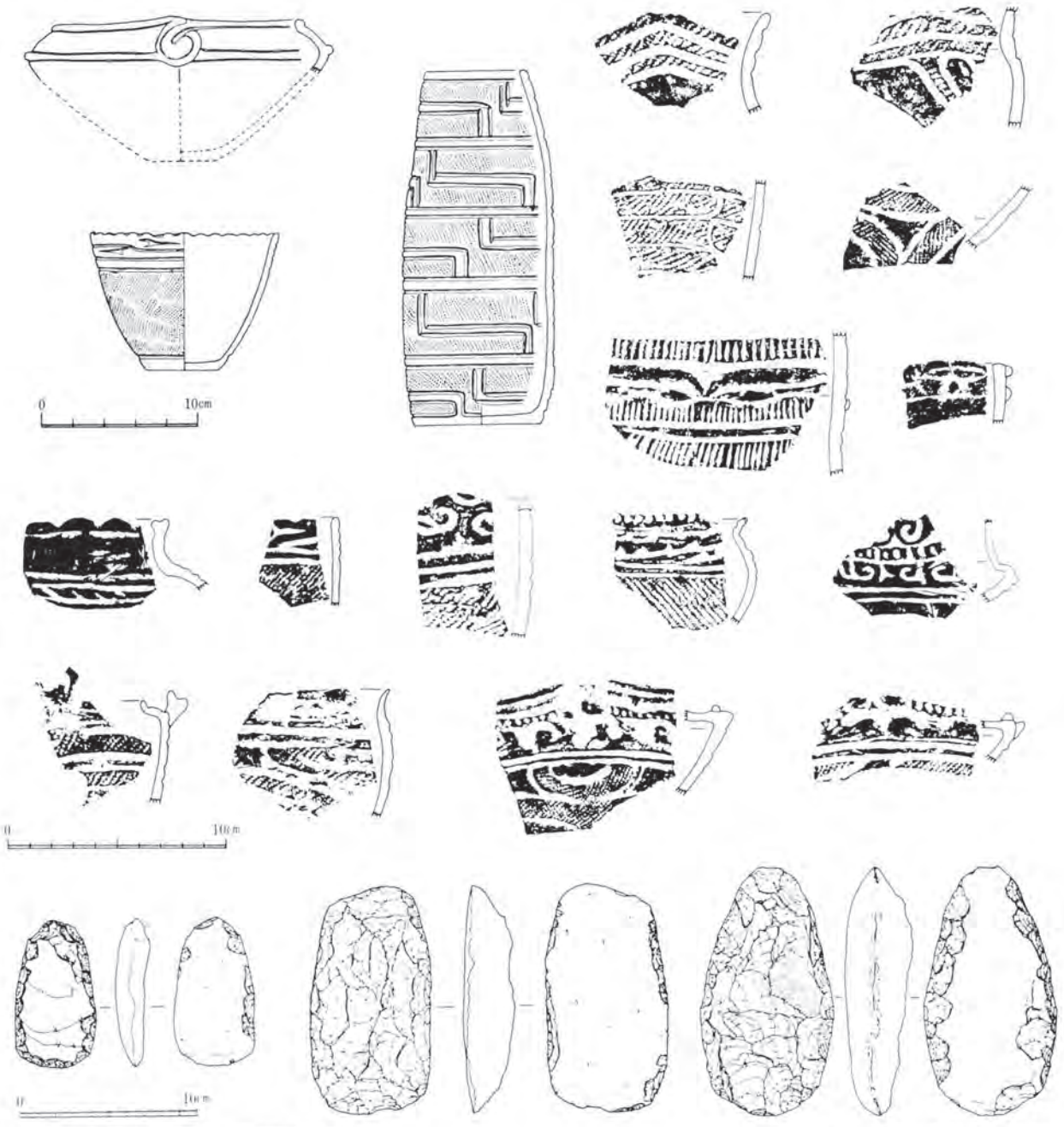
Fig. 9 大付遺跡遺物



Photo．13　大付遺跡遺物

Photo．14　大付遺跡遺物

Photo. 15　大付遺跡遺物



Fig．10　大付遺跡遺物

Photo．16－1

Photo．16－2

1979　大付遺跡発掘
調査報告書より

Photo．16
大付遺跡出土人骨

2－3　わたのは遺跡　Sa－11

位　置

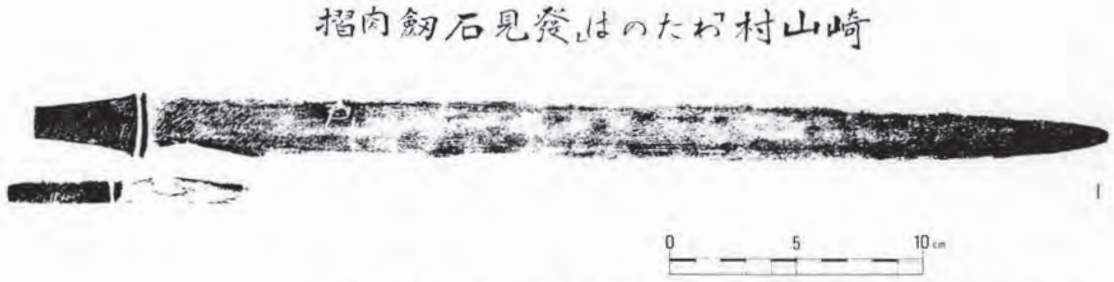
わたのは遺跡は、大付遺跡と沢をへだててすぐ北の台地にあり標高も約70～90ｍで大付遺跡とほぼ同様な立地に存在する。古くは中嶋吉兵衛氏も踏査しており資料を採集している。

遺　物

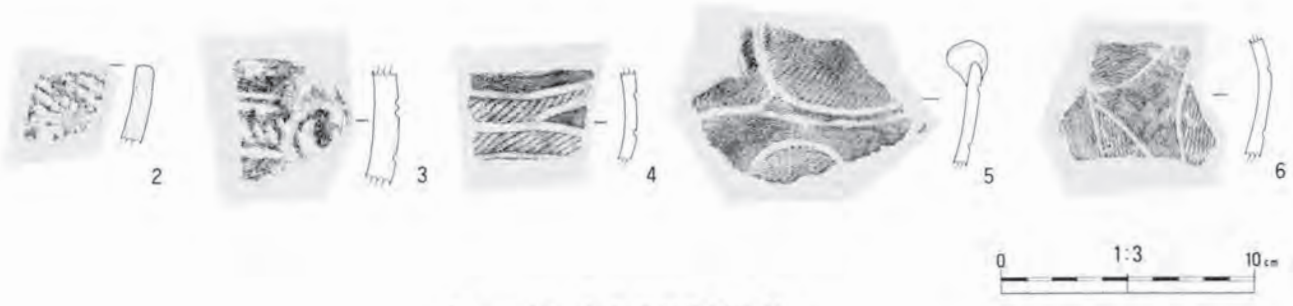
遺物は中嶋吉兵衛氏採集による縄文時代後期と考えられる石剣や注口土器、また今回の踏査では胎土に繊維を含むもの、また縄文時代中期及び後期の土器も採集されている。現況は畑となっており、遺物の散布密度は極めて濃い。

遺跡のすぐ北側には潮吹き遺跡と区切る小さな沢があり、水源にも恵まれ、また海から200～300ｍということから、海性の食物獲得も容易であったと考えられる。

Photo．17　わたのは遺跡



Fig．11　わたのは遺跡出土石剣（中嶋吉兵衛著　先史遺物帖より）



Fig．12　わたのは遺跡遺物

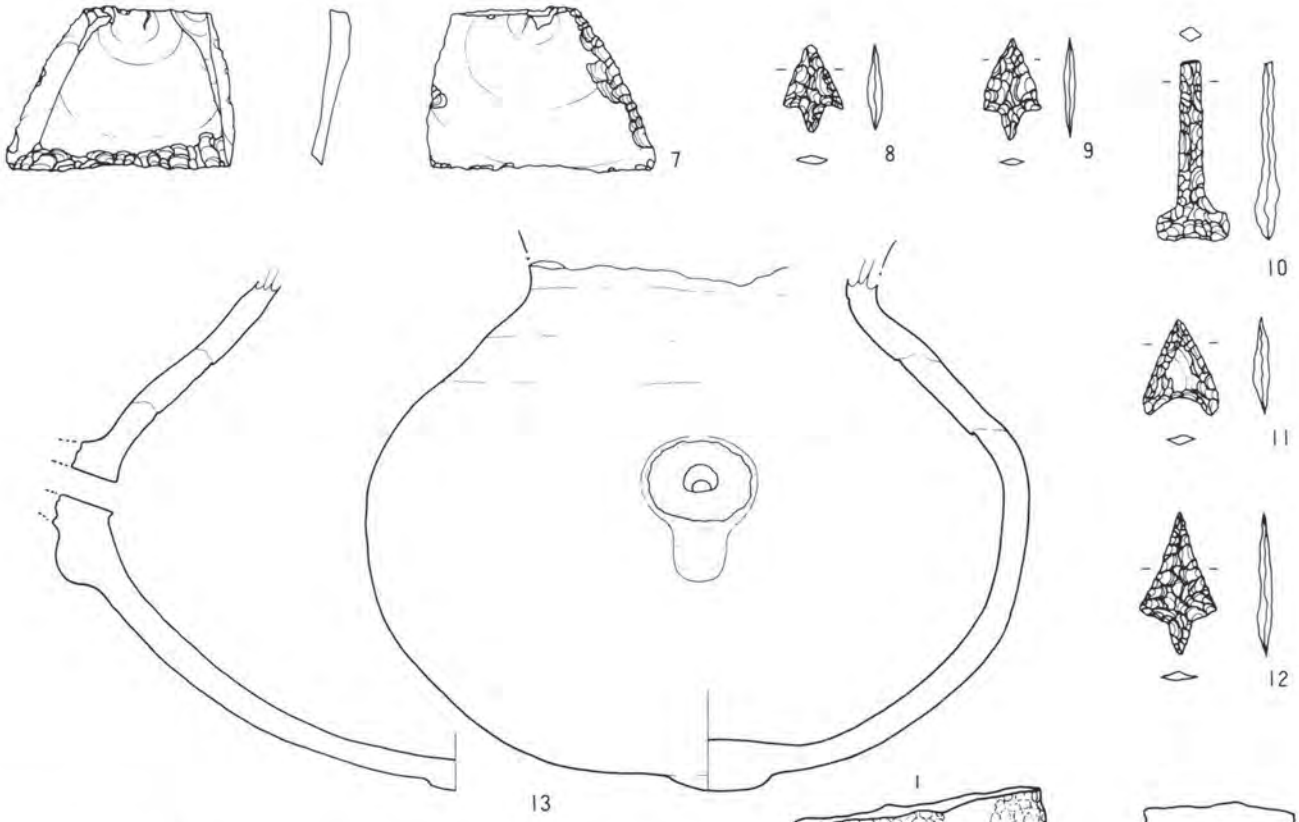


Photo. 18 — 1

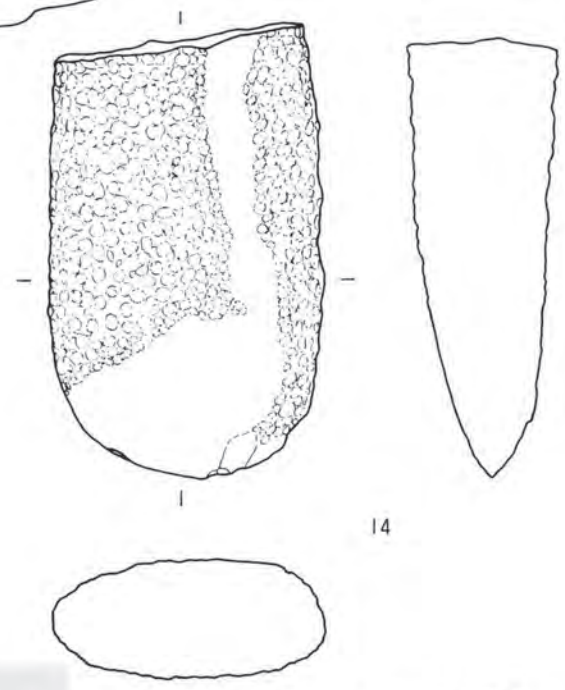


Fig. 13 わたのは遺跡遺物

Photo. 18 わたのは遺跡遺物

0 2/3 5 cm

Photo. 18 — 2

2－4　白石遺跡　Sa－05　(Fig.14－8,9　Photo.19－1　Photo.22)

白石遺跡は、海岸から約 900ｍ内陸に入った標高約 120～130ｍ の尾根及び台地基部に存在する。ここからは縄文時代早期末から後期初頭の遺物が出土している。

2－5　古里遺跡　Sa－14　(Fig.15－36~39　Photo.19－2　Photo.24)

古里遺跡は、東方を除く三方向を尾根に囲まれた洞状の地形にあり、標高は約80～90ｍである。現況はほぼ畑ないし水田で、南向きの緩斜面の畑に特に遺物の集中する部分がある。遺物は縄文時代前期～中期の土器が見られる。

2－6　潮吹き遺跡　Sa－12　(Fig.14－1~7　Fig.15－12~15　Photo.19－2　Photo.23)

わたのは遺跡と小さな沢をへだててすぐ北の台地に所在し、標高は約70～90ｍである。縄文時代前期の遺物が出土している。

2－7　Sa－24　(Fig.14－10　Fig.15－24~35　Photo.19－3,5　Photo.25)

崎山小学校の東南方にあり、標高は120ｍ～130ｍで崎山貝塚とは尾根をひとつへだてた北の地区になる。縄文時代中期の遺物が主体を占める。Fig. 14－10は砂岩質の石を磨いて作った男根状の石製品である。

2－8　Sa－25　(Fig.15－16~23　Photo.19－4)

標高 120ｍほどの北北東へ伸びる尾根上に所在する。現況はほぼ山林であるが、林道を切り開いた部分に多数の遺物散布が見られる。表採資料では縄文時代前期及び中期の土器がみられる。

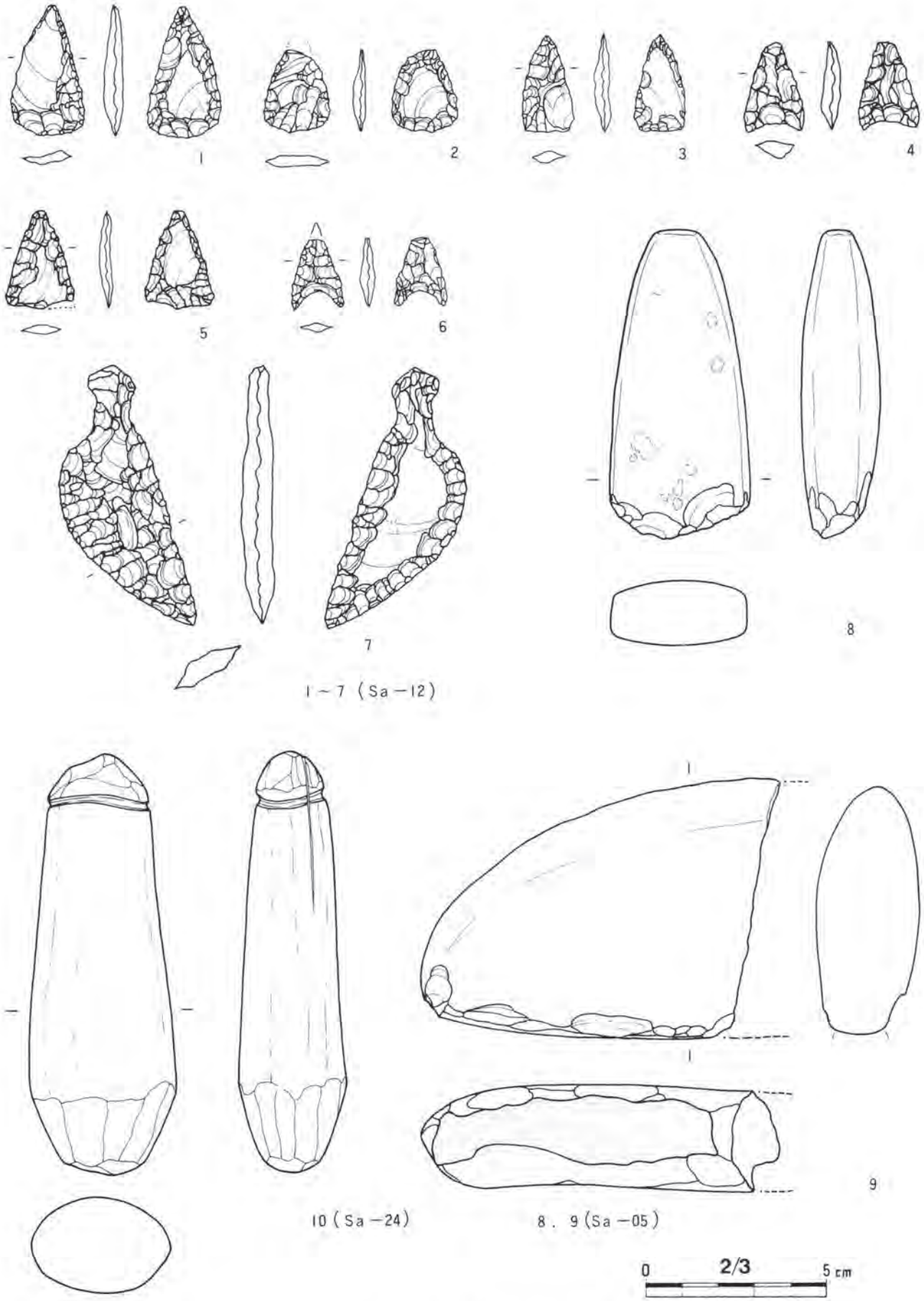


Fig. 14 崎山地区遺物

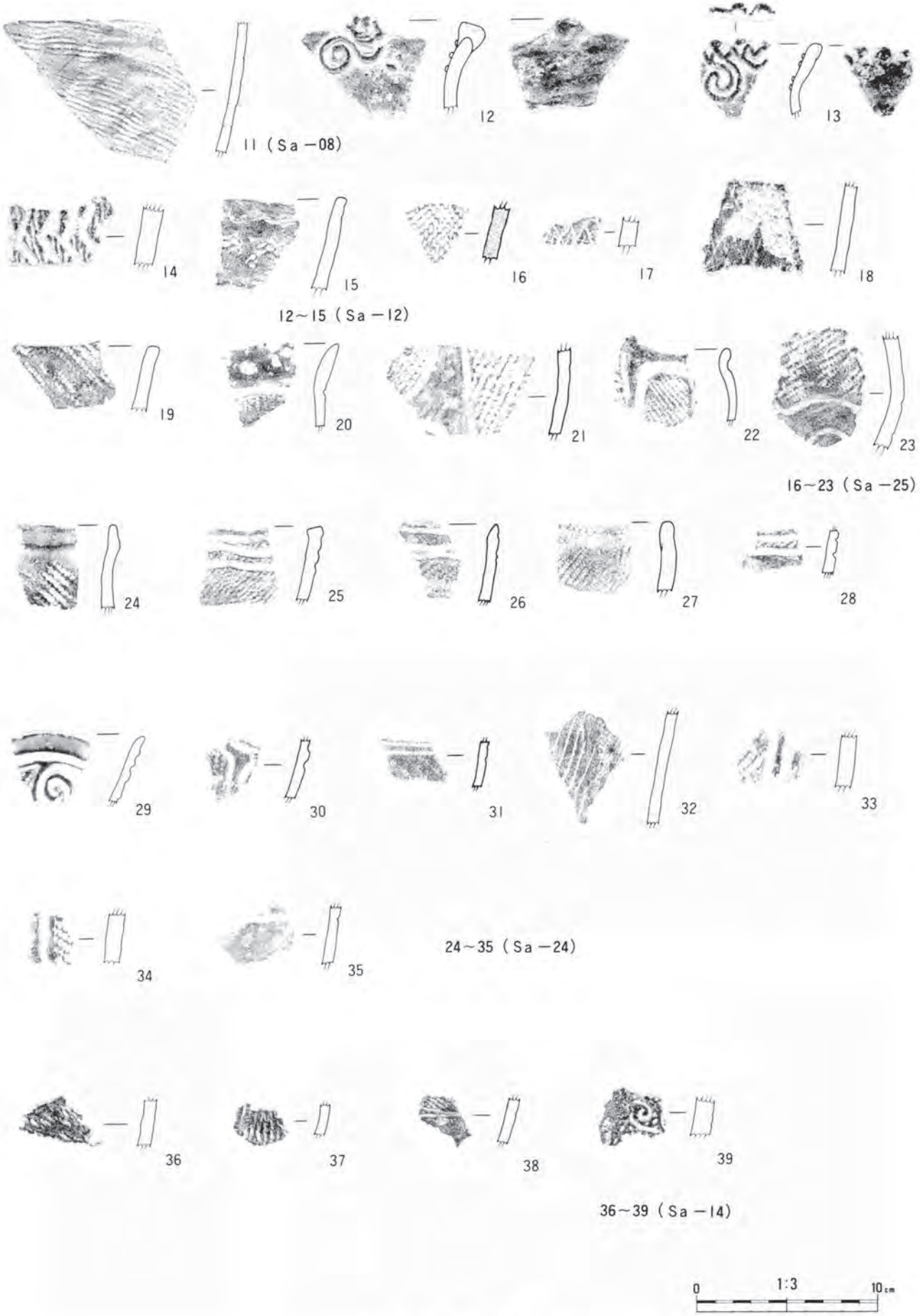


Fig. 15 崎山地区遺物

Photo. 19－1　Sa－05

Photo. 19－2　Sa－12

Photo. 19－3　Sa－24

Photo. 19－4　Sa－25

Photo. 19－5　Sa－24

Photo. 19　崎山地区遺物

Photo. 20 Sa－03

Photo. 21 Sa－04

Photo. 22 Sa－05

Photo. 23 Sa－12

Photo. 24 Sa－14

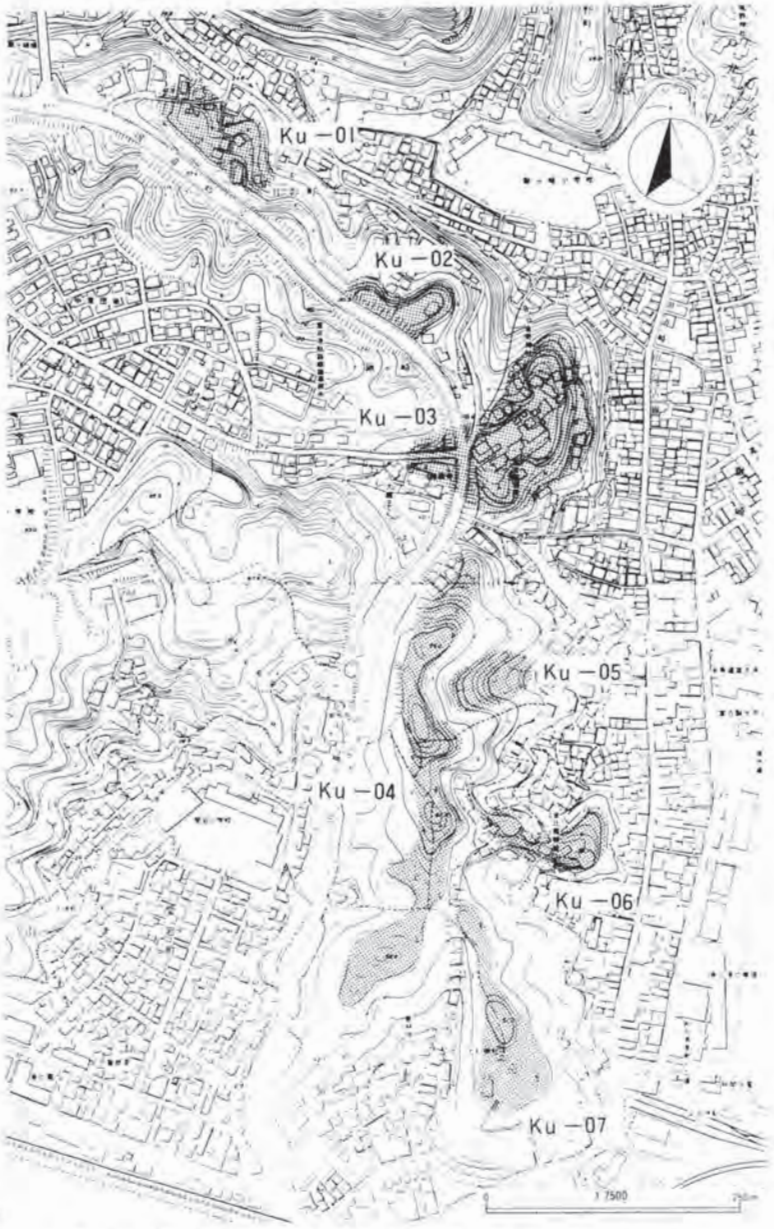
Photo. 25 Sa－24

3．鍬ヶ崎地区

位　置　鍬ヶ崎地区は、閉伊川河口の北岸に位置し、南に張り出す標高50～70ｍの尾根状の台地に遺跡が存在する。東方の台地下は現在市街地となっているが、海抜３～５ｍで海進期には台地下まで海が迫っていたと考えられる。当地区で確認された遺跡は７カ所を数え、この中には、古くから研究者により踏査されている館山貝塚（Ku－03）がある。地区内の

立　地　遺跡を概観すると、立地としては比較的狭い尾根上と、これから海へはり出す台地上に存在する。時期的には、館山貝塚では縄文時代早期から後期まで、またKu－01では晩期の遺物が出土している。Ku－01は 標高30～40ｍの台地下であるが、縄文時代晩期には海進の至っていない地域だったことが考えられる。

この地域は、南に閉伊川、東は海に面しており食料獲保にはかなり有利な立地条件を備えていると考えられる。また館山貝塚からは陸性動物の遺存体も出土しており、海と陸そして河川からの食物獲得が容易であったと考えられる。



Fig．16　鍬ヶ崎地区遺跡分布図（Kuwagasaki）

Photo．26　鍬ヶ崎地区（Kuwagasaki）

3－1　館山貝塚　（Shell Mounds of Tateyama）

立　地　館山貝塚は鍬ヶ崎地区にはり出す台地のほぼ中央から東方に突出した標高約40ｍの舌状の台地に所在する。北西及び南は沢により区切られており、東は海に面する崖となっている。

現　況　台地基部は国道45号線で破壊されており、台地主体部も宅地や測候所構内となっているが、東縁部の観測庭付近は旧状を止めている。昭和55年測候所構内の崖縁を所員が掘ったところ、土器多数と猪の下顎骨が出土しており、ここでは遺構の一部と考えられる掘ち込みが確認されている。

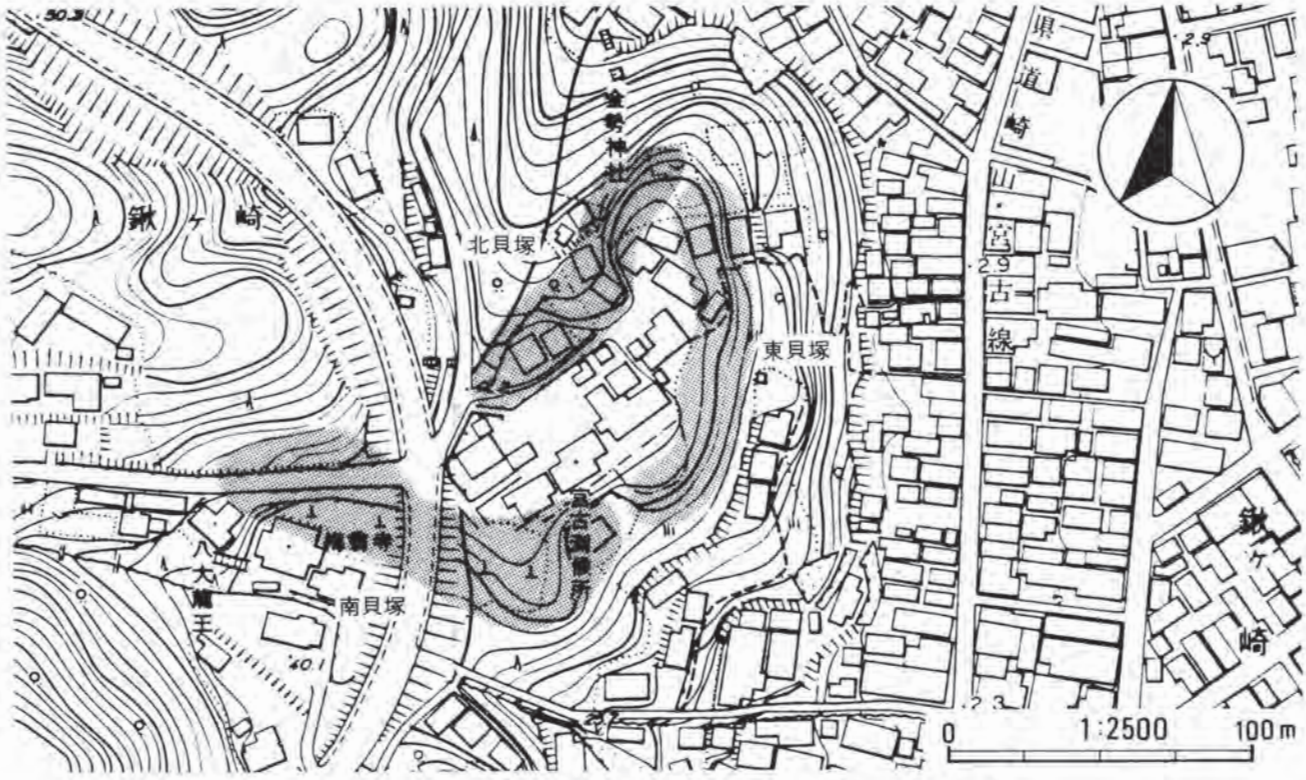
研究史　館山貝塚は古くから研究者により踏査されており、明治時代末には中嶋吉兵衛氏による詳細な資料の紹介が成されている。(註１)　また同氏から骨角器等の資料提供を受けた東京帝国大学農科大学の岸上鎌吉博士は、その論文「Prehistoric Fishing in Japan」(註２)　の中で館山貝塚の釣り針等の資料をとりあげている。(Fig．22) また昭和初期には角田文衛氏が踏査し縄文時代前期～中期の資料を採集している。(註３)

遺　物　表採資料では縄文時代早期の貝殻文土器、また前期・中期・後期の各時期の遺物が見られる。後期の遺物は北貝塚を中心に出土しており、東貝塚では前期・中期の遺物が出土している。前中期及び後期で占地の変化があったことが考えられる。集落構成としては、台地周囲に貝塚をもちその内側に住居跡を配するものと推定される。

註１　1911年　中嶋吉兵衛　先史遺物帖

註２　1911年　岸上鎌吉「Prehistoric Fishing in Japan」東京帝国大学農科大学研究紀要第２巻

註３　平安博物館　南博史氏により資料整理が進められている。



Fig．17　館山貝塚（Shell mounds of Tateyama）

Photo．27　館山貝塚遠景

Photo．28　館山貝塚

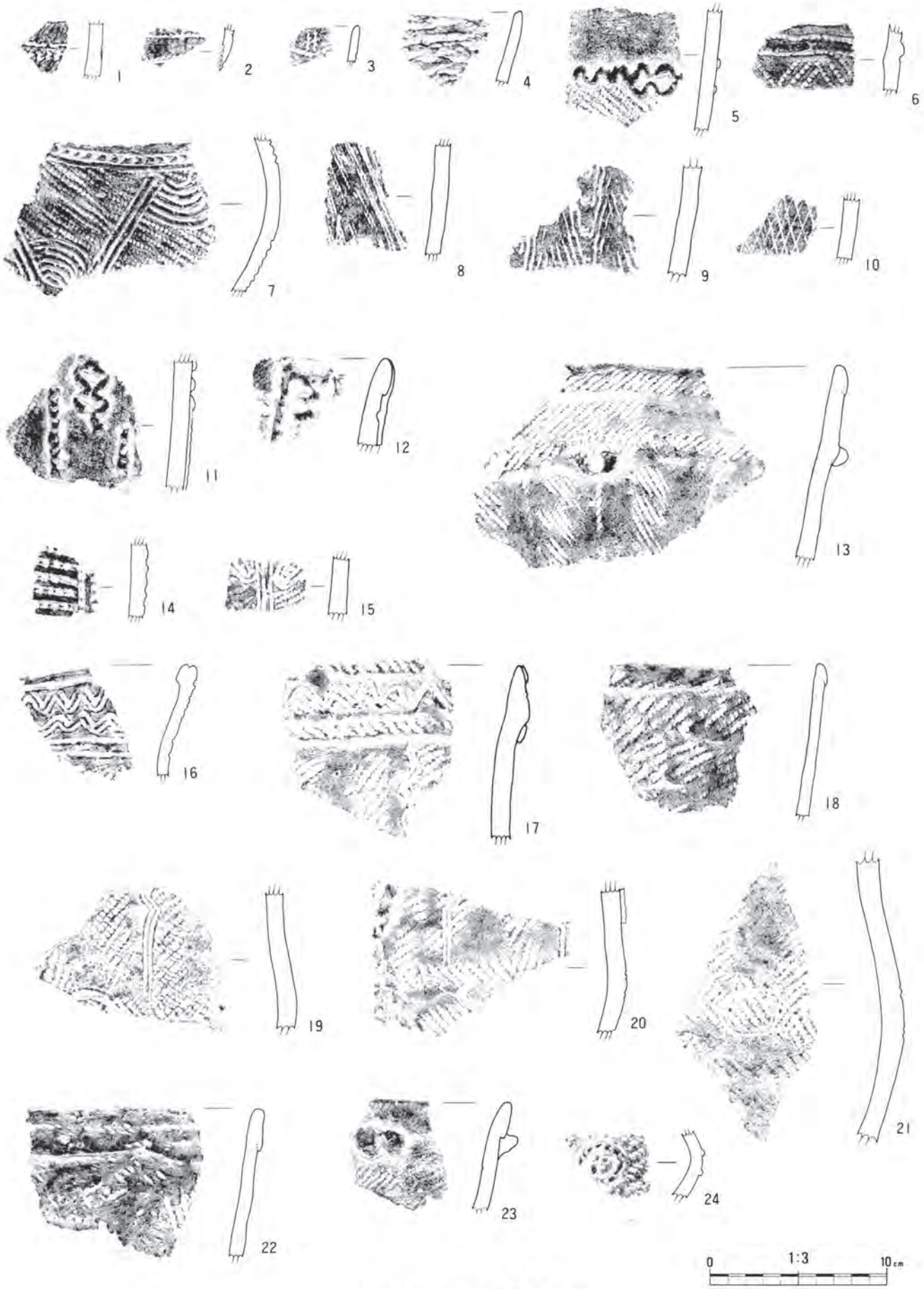


Fig. 18 館山貝塚遺物

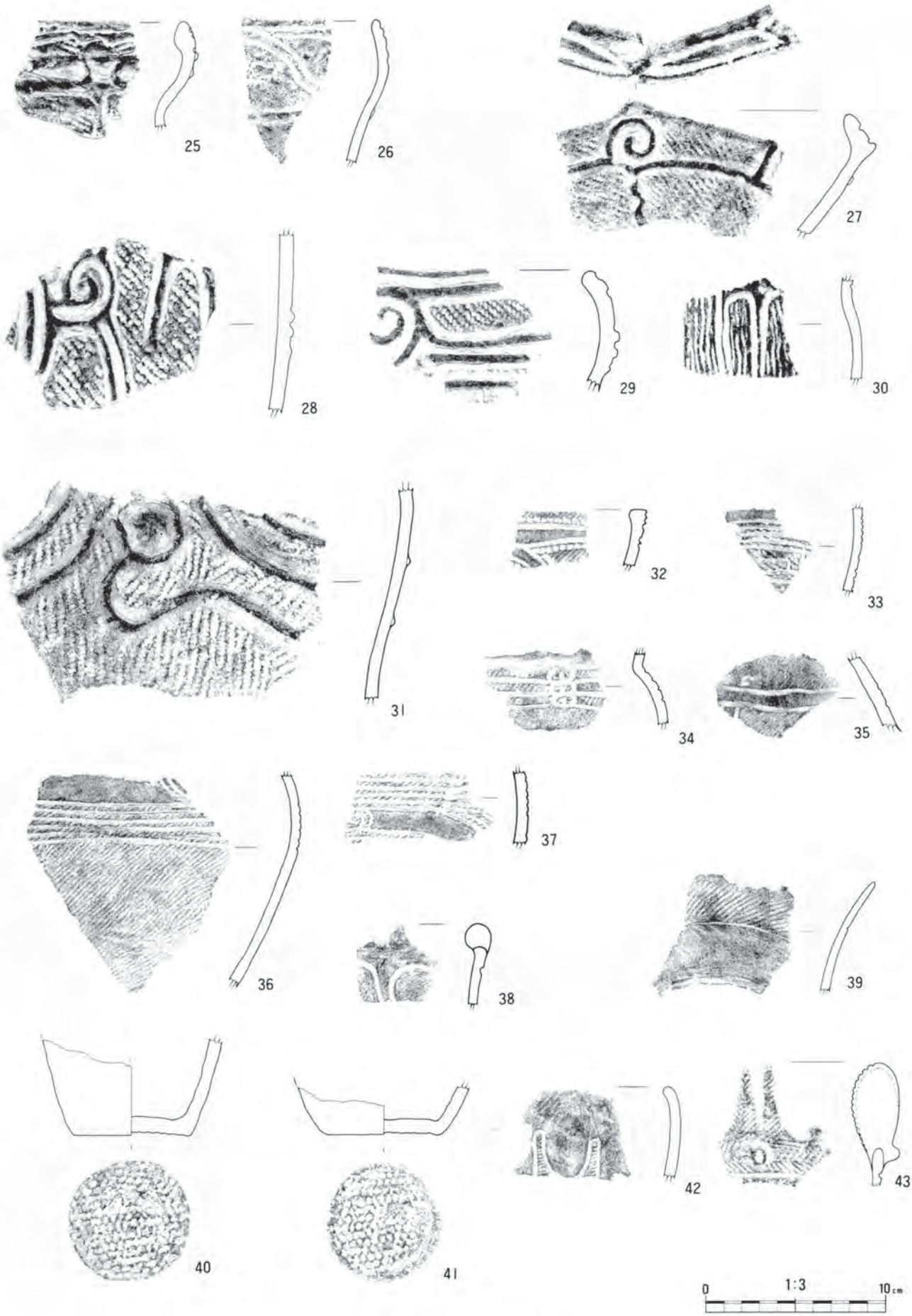


Fig. 19 館山貝塚遺物

Fig．20　鍬ヶ崎地区遺物

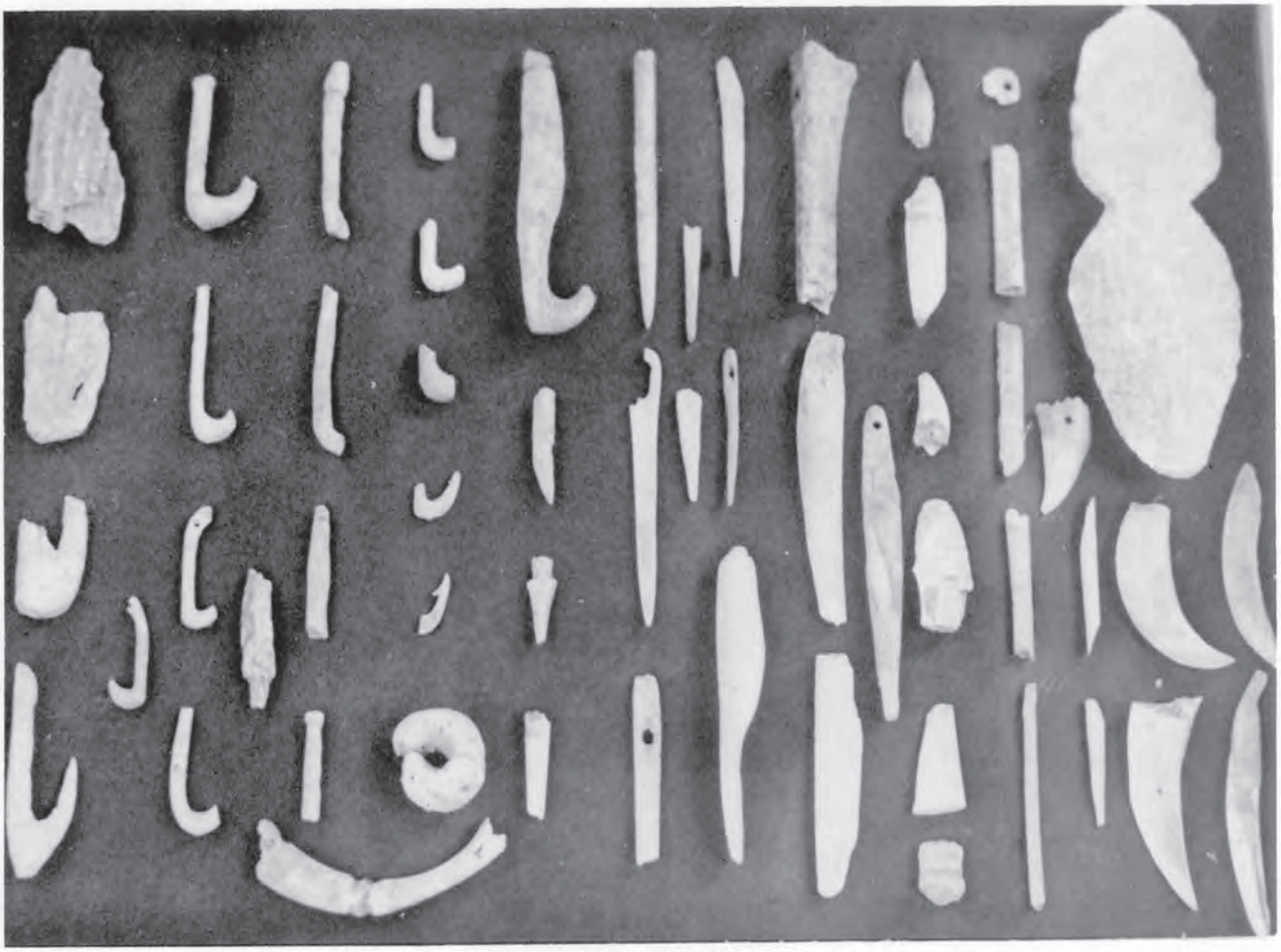
Photo．29　館山貝塚遺物

Photo．30　館山貝塚遺物

Photo．31　館山貝塚遺物

Photo．32　館山貝塚遺物（動物遺存体）

Photo．33　館山貝塚遺物（動物遺存体）



Photo．34　館山貝塚遺物（骨角器）

Photo．35　館山貝塚遺物

Photo . 36 館山貝塚遺物

Photo.36,38
Fig .21は1911年中嶋吉兵衛著
先史遺物帖より

Photo . 37 Ku－01

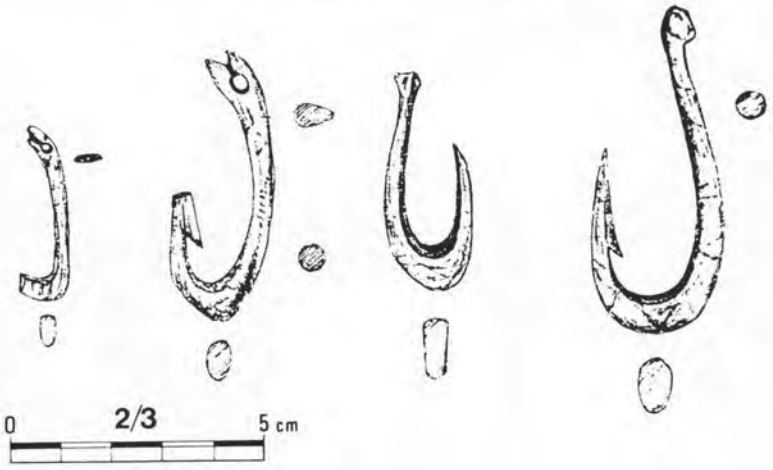


Fig . 21 館山貝塚骨角器

Photo . 38 館山貝塚骨角器

参考資料

Prehistoric Fishing in Japanより

Quite recently Mr. K. Nakajima obtained two specimens of similar objects from the shell-mound of Kuwagasaki, Iwate-ken. They are about 88 mm. in length. One of them is thick and quadrangular in cross-section while the other is laterally compressed (Fig. A). The former (a) resembles more or less the original of Fig. 24 and has the anterior pointed part about 10 mm. in length, which is followed by a narrow stem of about 40 mm. The surface of the stem is more or less rough and is coated with pitch. There is no straight side at the stem. The barb is about 27 mm. long. The latter specimen (b) resembles the original of Fig. 17, but is longer, thinner and wants the straight side. The anterior pointed part is 20 mm. long, 9 mm. in breadth and 3 mm. in thickness. The stem is about 30 mm. long, 6 mm. in breadth and 4.5 mm. in thickness.

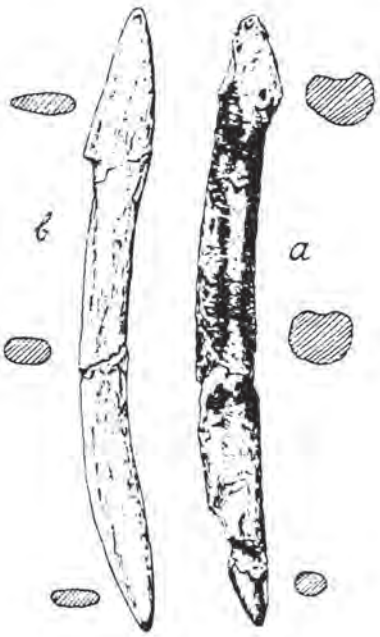


Fig. A. Dart-heads of deer-horn, From Kuwagasaki.

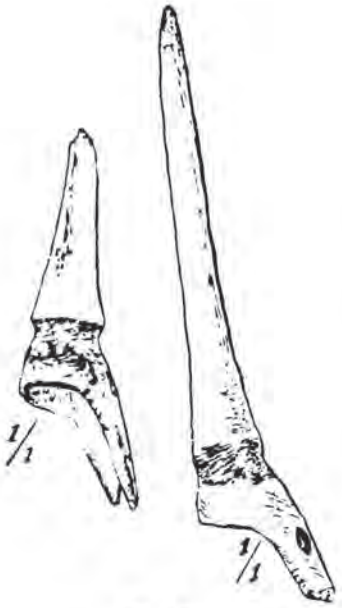


Fig. C.
Harpoon-heads of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. D.
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. E
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. F.
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. K.
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. L.
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Two very singular forms of the spurred harpoon-heads (Fig. C) were recently discovered by Mr. KICHIBEI NAKAJIMA in the shell-mound of Kuwagasaki and were kindly sent to me by the finder. They are very simple and differ from those already found in wanting the transverse hole or line hole but having a transverse groove round the implement at the level just a little above the distal end of the longitudinal hole or the socket for the shaft. At the transverse groove we find a coating of pitch, 6—10 mm. broad. Thus we see that the string connecting the head and the shaft was tied round the groove and was cemented with pitch. In both specimens the transverse groove is found at a distance of about 10 mm. from the proximal end.

Fig. H.
Fish-hook of antler.
From Kuwagasaki.

Fig. 22 館山貝塚出土骨角器 1911年 岸上鎌吉 Prehistoric Fishing in Japan より

4．小沢地区（Kozawa）

小沢地区は宮古市の市街地の北、黒森山から続く台地の東ふもとに位置する。この地区では５カ所の遺跡が確認されている。遺跡は10～20ｍの台地すそ野あるいは30～50ｍの開析された谷野に所在する。現在の市街地域は、近世文書からも低湿地であったことがうかがわれ、遺跡はこれを避けた地域に営まれたと考えられる。遺物は胎土に繊維を含む土器また縄文時代中期・後期の土器、土偶さらに土師器・須恵器も出土している。

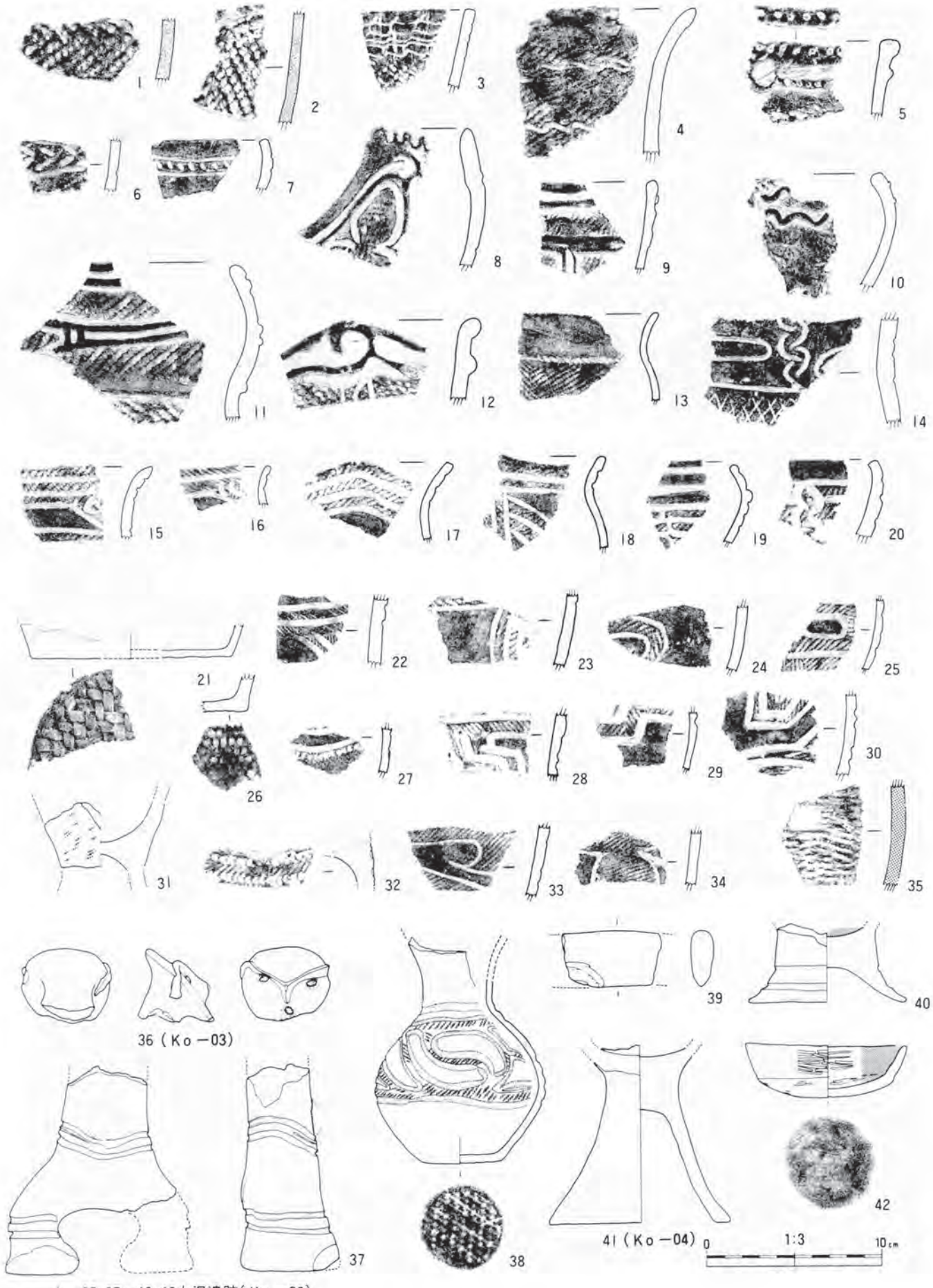
立　地

遺　物

Ku－01～大上遺跡、Ku－02～小沢遺跡、Ku－03～石倉平遺跡、Ku－04～人形鼻遺跡、Ku－05～神籠石遺跡

Fig. 23　小沢地区遺跡分布図（Kozawa）

Photo．39　小沢地区（Kozawa）

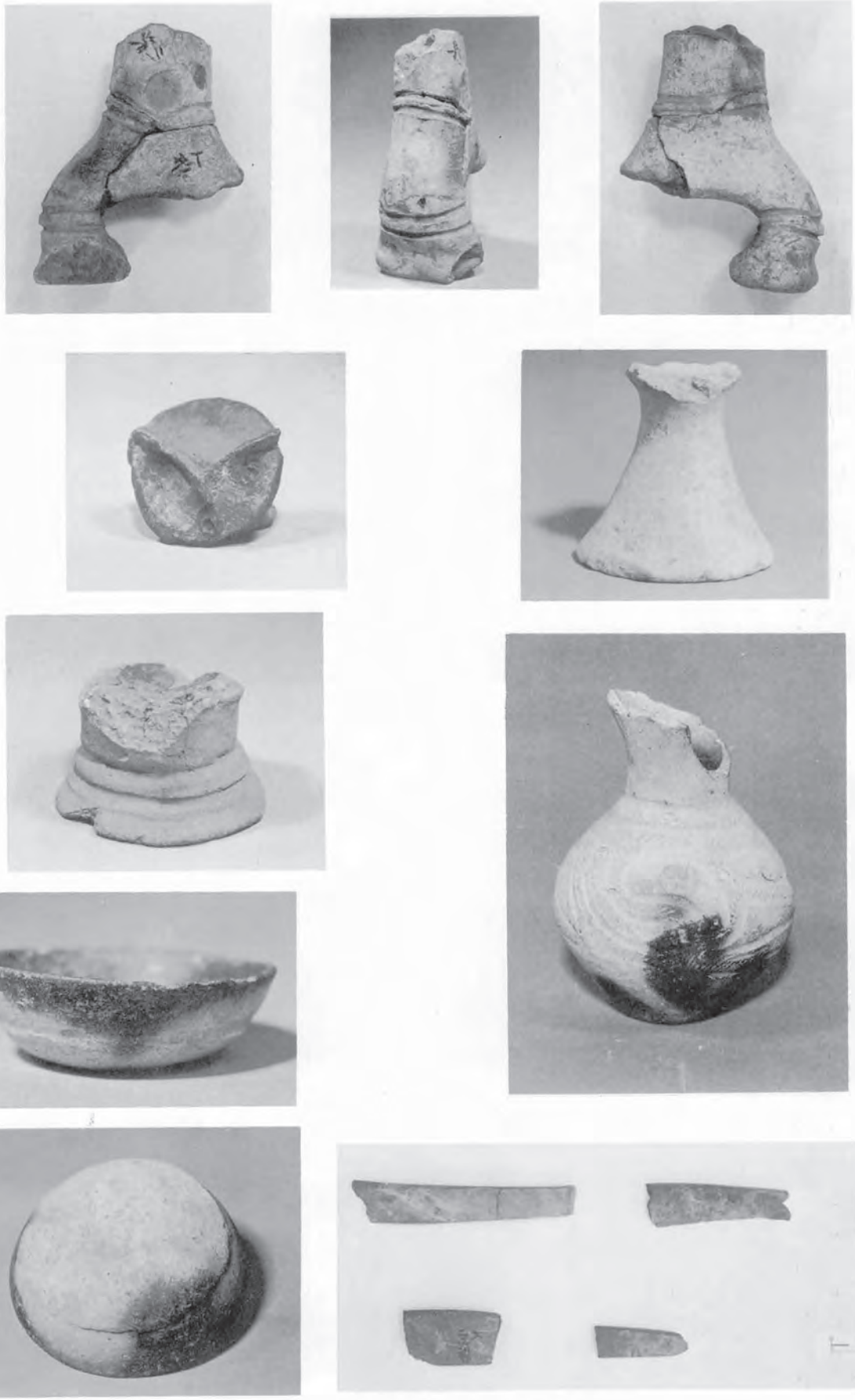


1～35,37～40,42小沢遺跡(Ko－02)

Fig. 24 小沢地区遺物

Photo．40　小沢遺跡遺物

Photo．41　小沢遺跡遺物



Photo．42　小沢地区遺物

Photo．43　大上遺跡（Ko－01）

Photo．44　小沢遺跡（Ko－02）

Photo．46　人形鼻遺跡（Ko－04）

Photo．45　石倉平遺跡（Ko－03）

Photo．47　神籠石遺跡（Ko－05）

5．山口地区

位　　置　山口地区は小沢地区の西、市街地の北西に位置し、南流する山口川の流域である。この地区では12遺跡が確認されており、大きく分けて次の三地区に遺跡が存在する。

小 地 区　1．黒森山に続く台地上～Ya－01(拝殿ヶ沢遺跡)、Ya－02(拝殿峠遺跡)
Ya－03（山口館跡）

2．山口川と東流する小河川にはさまれる台地
Ya－04(天神山遺跡)、Ya－05(駒込遺跡)、Ya－06

3．山口川上流域　～　Ya－07（赤畑遺跡)、Ya－08(高根遺跡)、Ya－09(小平遺跡)
Ya－10、Ya－11、Ya－12

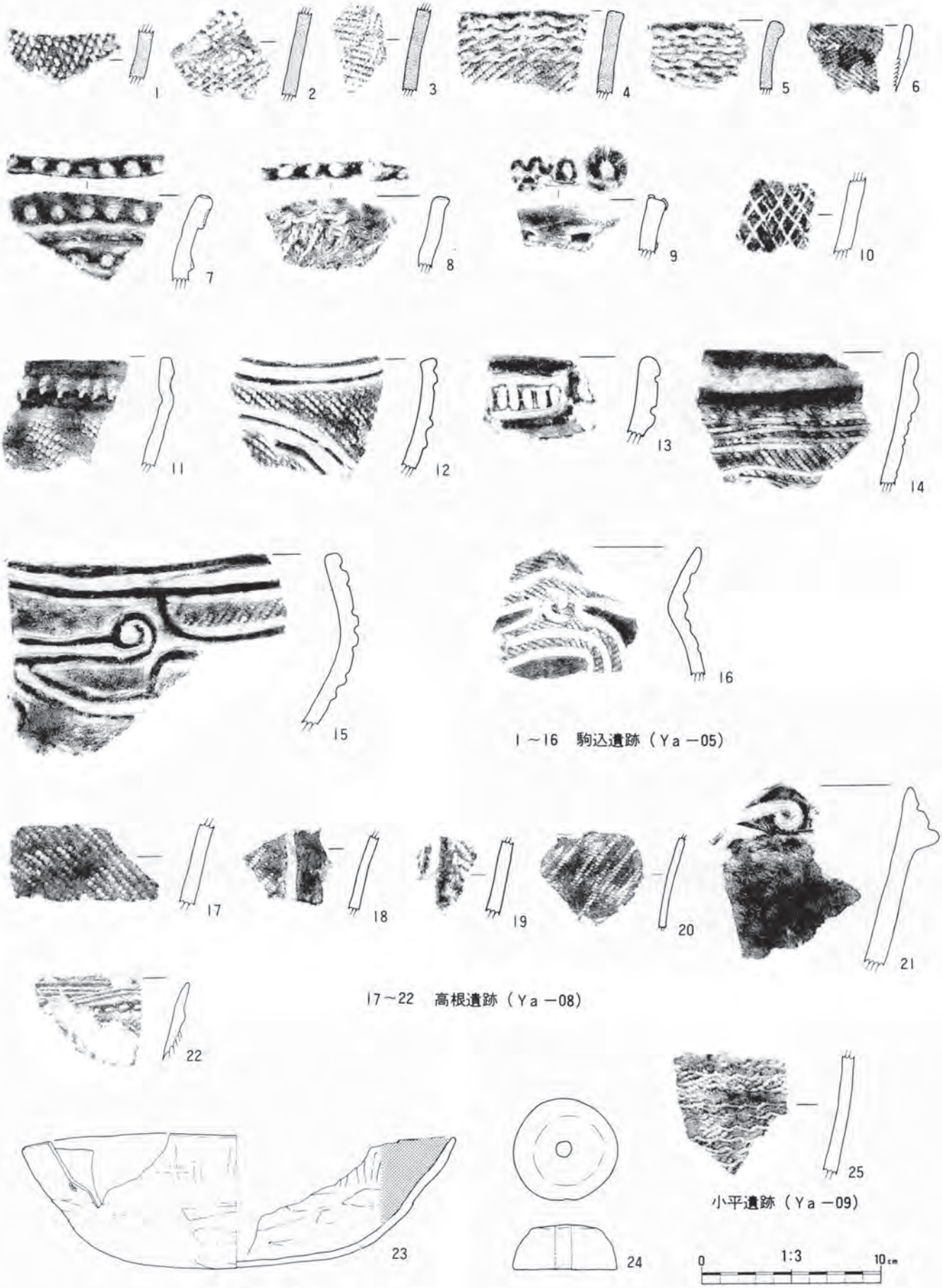
山 口 館　Ya－01の 山口館跡は南北朝時代から戦国時代初期のものと言われ、二段の副郭を伴う主郭と、この下方に空掘で区切られた同様の構造をもつ遺構が見られる。（註１）

遺　　物　Ya－05の 駒込遺跡からは、縄文時代早期末から前期・中期・後期の各時期の遺物さらに土師器も出土している。またYa－06からは鉄滓も出土しており、奈良平安時代の遺構が存在すると推定される。また山口川上流域の各遺跡からも縄文時代の遺物散布が見られる。

註１　1980年　田村忠博　日本城郭大系2

Fig. 25　山口地区遺跡分布図

Photo．48　山口地区



1～16　駒込遺跡（Ya－05）

17～22　高根遺跡（Ya－08）

小平遺跡（Ya－09）

23，24　駒込遺跡（Ya－05）

Fig．26　山口地区遺物

Photo．49　駒込遺跡遺物（Ya－05）

Photo．50　拝殿峠遺跡（Ya－02）

Photo．51　駒込遺跡（Ya－05）

Photo．52　赤畑遺跡（Ya－07）

Photo．53　高根遺跡（Ya－08）

Photo．54　小平遺跡（Ya－09）

Photo．55　Ya－11

6．藤原・磯鶏地区（Fujiwara、Sokei）

6－1　藤原地区

閉伊川の河口南岸に位置し、北へ張り出す台地上及び開析された谷野に遺跡が所在する。

Fu－01 猫屋の沢遺跡は、台地から北へ開いた標高10～30ｍの緩斜面に所在する。ここからは縄文時代前期の土器及び須恵器が出土している。（Fig．28－31．32）

Fu－02 牛舎の沢遺跡からは、かつて奈良時代末期から平安時代初頭と考えられる遺構が検出されており、(註１）この台地上に古代の集落が存在する可能性が高い。

Fu－03 キジヶ沢遺跡は、北に開析された洞状の地形にあり、縄文時代の遺物や土師器も出土している。

Fu－04は現在山林・原野として旧状を止めているが、立地および周辺での遺物散布状況から、遺跡の所在が十分に予想される地域である。

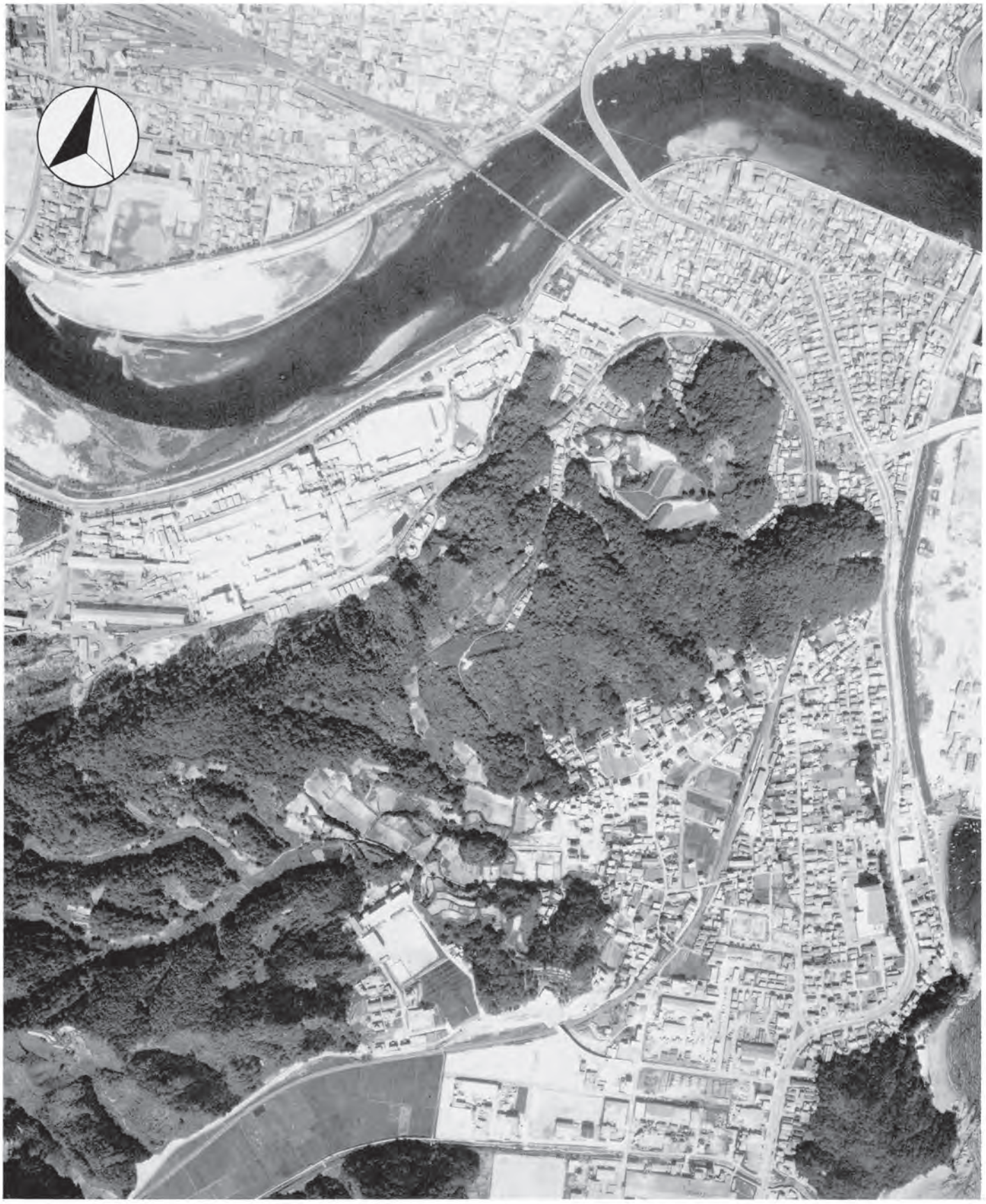
(註１）昭和47年５月12日　岩手日報記事

6－2　磯鶏地区

藤原地区の南東に続く台地上及び深く開析された緩斜面の谷野に遺跡が所在する。８ヶ所の遺跡が確認されているが、この地域のほぼ全域が遺跡で占められており、藤原地区から続く遺跡群としてとらえた方が良いと考えられる。この地区にはSo－01 小沢田貝塚、So－03上村貝塚、So－05 蝦夷森貝塚などの貝塚が集中しており、重要な遺跡群として保護が図られる必要性がある。

遺　物　磯鶏地区の遺跡からは、縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期の各期の遺物が出土しており、さらに須恵器等古代の土器も出土している。Fig．28の14は内面に条痕、外面に縄文が施されている。15は内外面共に縄文が見られる。30はSo－01小沢田遺跡より出土したもので、酸化炎焼成である。この他に蝦夷森貝塚からは、田村忠博氏により縄文時代の屈葬人骨が掘り出されており、これは山口の慈眼寺寄生木記念館に保管されている。

Fig. 27　藤原磯鶏地区遺跡分布図（Fujiwara－Sokei）



Photo．56　藤原・磯鶏地区（Fujiwara－Sokei）

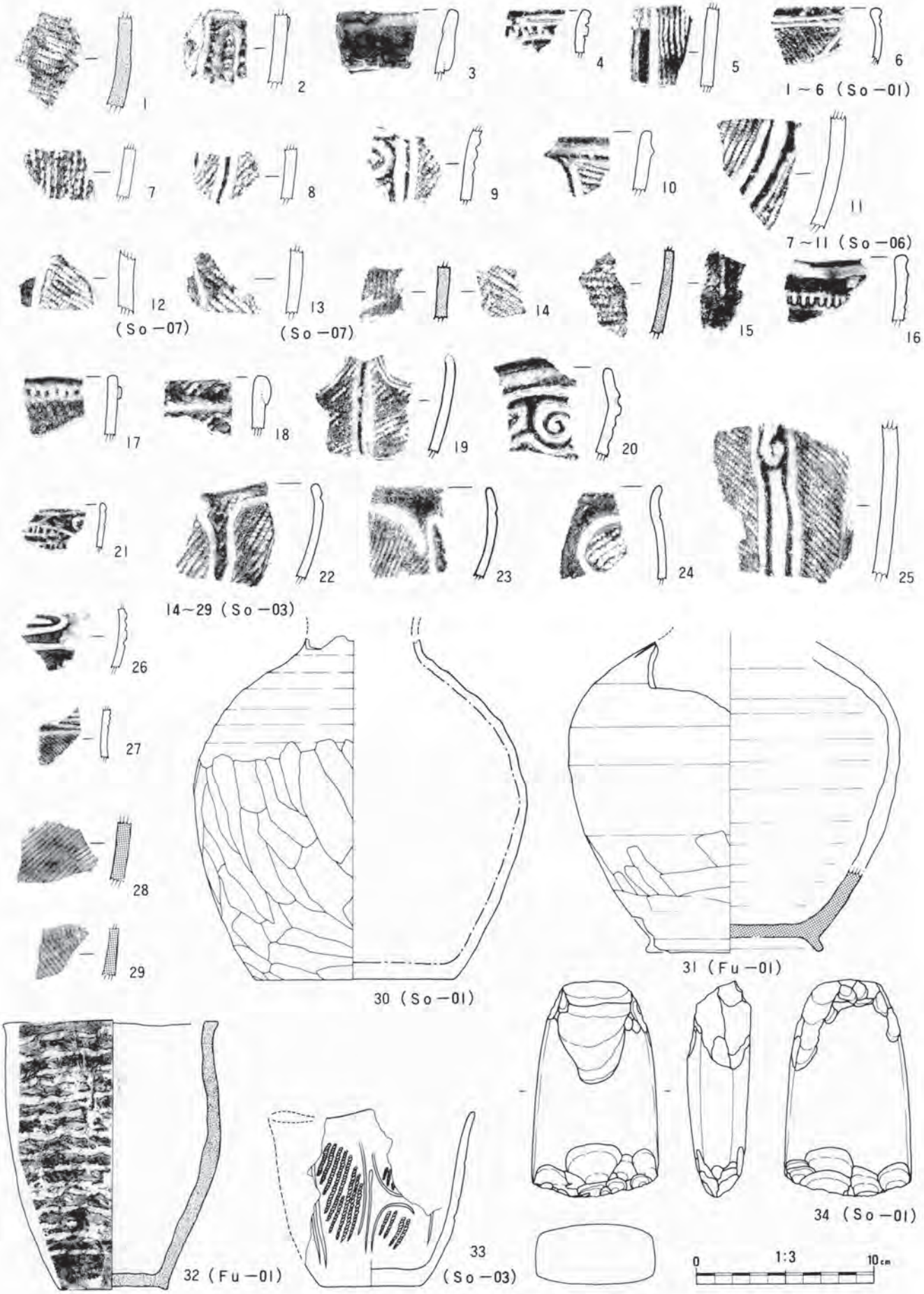
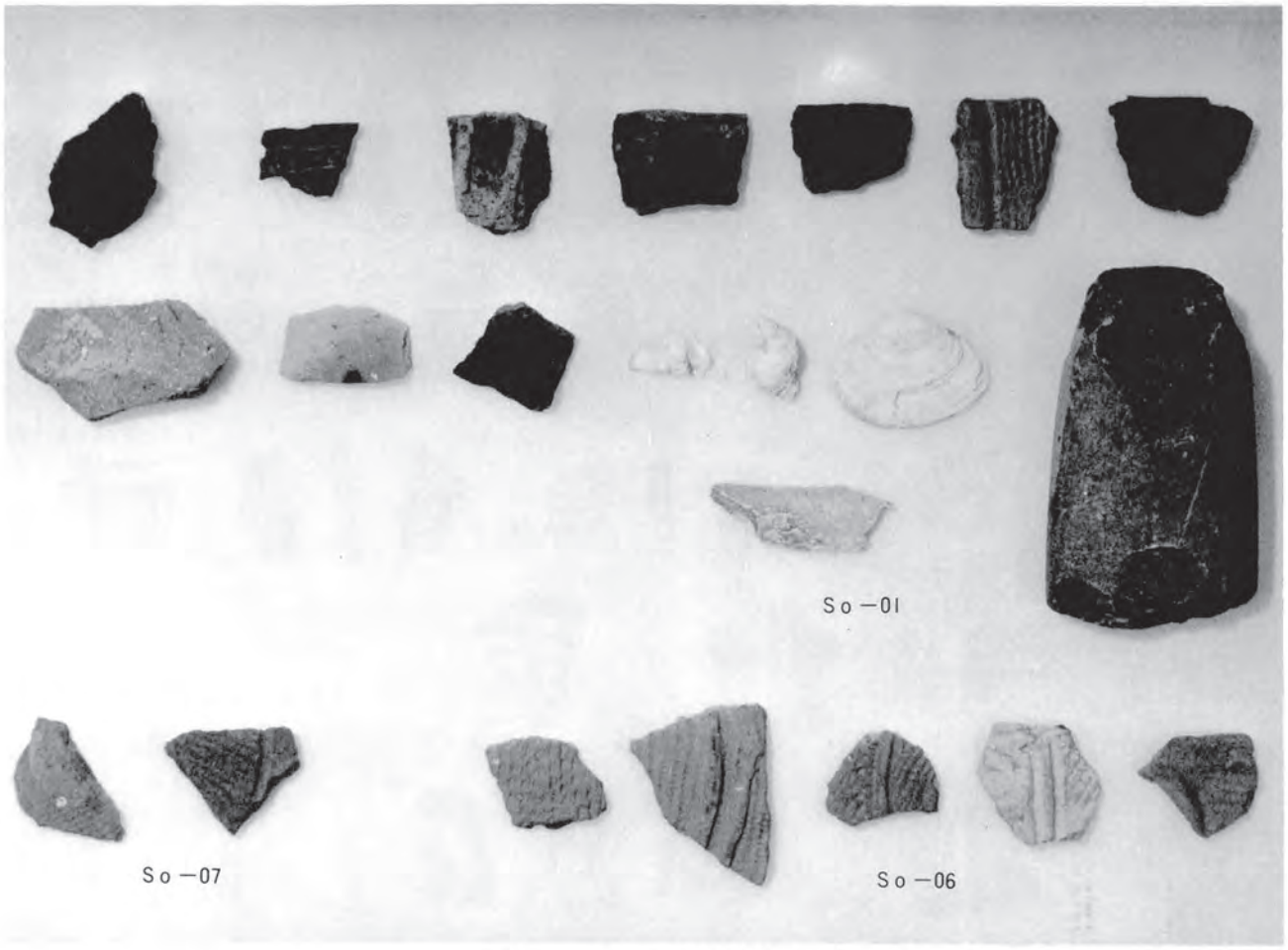
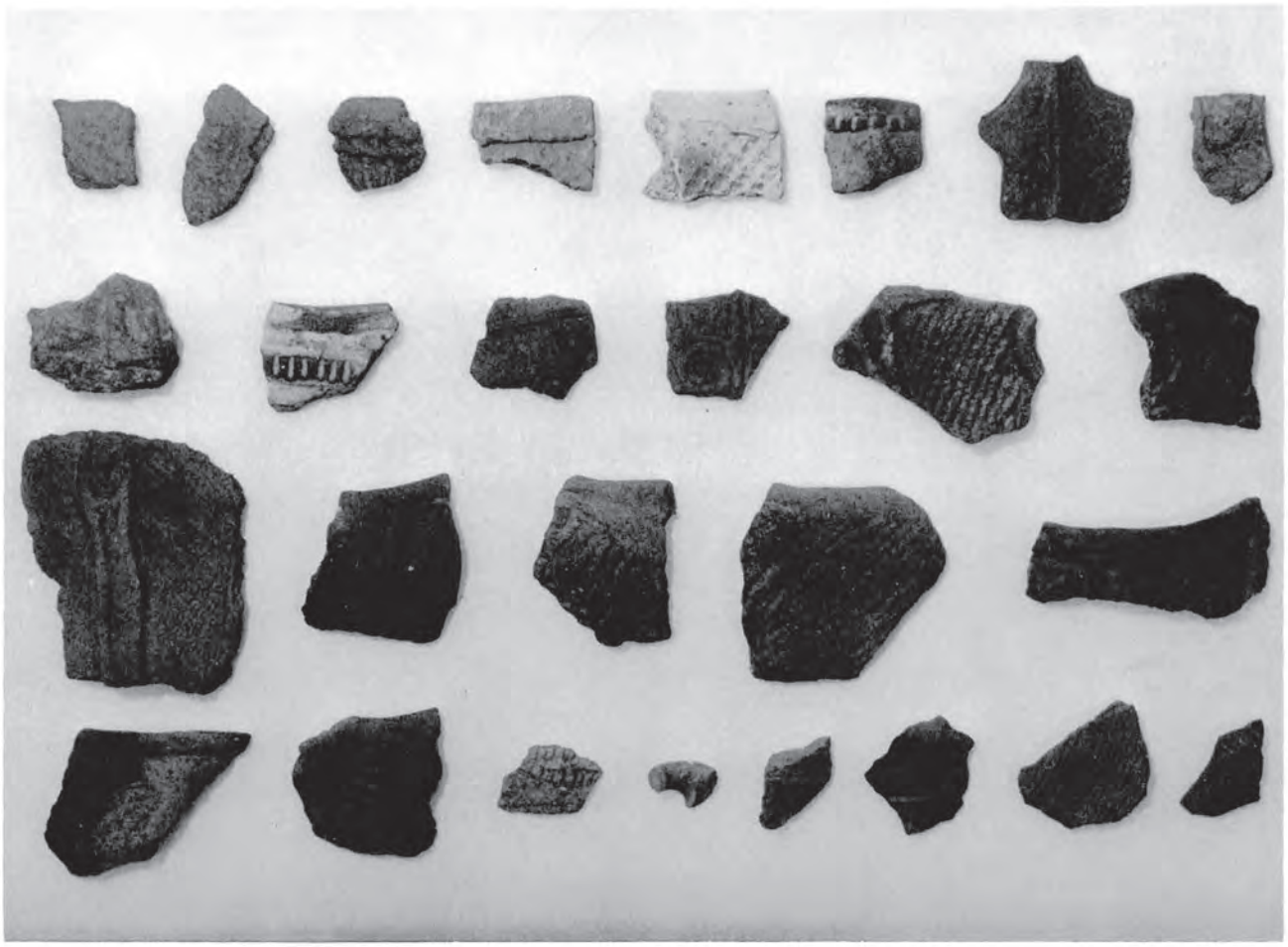


Fig. 28　藤原・磯鶏地区遺物



Photo．57　磯鶏地区遺物



Photo．58　上村貝塚遺物（Wamura So－03）

Fu－01

So－03

Fu－01

So－01

Photo．59　藤原・磯鶏地区遺物

Photo．60　キジヶ沢遺跡（Fu－03）

Photo．61　上村貝塚（WamuraSo－03）

Photo. 62　So－04

Photo. 63　So－04

Photo．64　蝦夷森貝塚（So－05）

Photo．65　段ノ沢遺跡（So－07）

7．赤前地区（Akamae）

位　　置

赤前地区は宮古湾の東岸奥、津軽石川河口に位置し、重茂半島を形成する山地を背後にひかえている。この地区では現在6カ所の遺跡が確認されており、いずれも標高10～40mの緩傾斜の丘陵性台地縁辺部に所在している。現在水田として利用されている台地下はかつて海水の湾入があった地域と考えられる。

発掘調査

昭和54年、赤前小学校の建設に伴いAk－04の一部が調査されている。ここからは平安時代の竪穴住居跡3棟が検出された他、縄文時代早期末、中期及び後期の遺物が出土している。（Fig.31）

Fig.31の1・2は関東地方で穂づみ具として考えられている鉄器で、当地方でも農耕に関する鉄器として着目されるものである。

また、今調査においてAk－03の一部について試掘調査を行った。調査地点はAk－03の北端にあたる部分で、段畑の各段にトレンチを設定しAk－03の北限と、その内容を探った。（Fig.29）その結果F－1のトレンチから平安時代と考えられる竪穴住居跡が検出された。その他、縄文時代の遺物若干と天目茶碗の破片等が出土している。

Ak－02は南北朝時代の平山城と言われる赤前館跡で、基部を二重の空掘りで区切り詰城と主郭、二の郭、砦を配している。

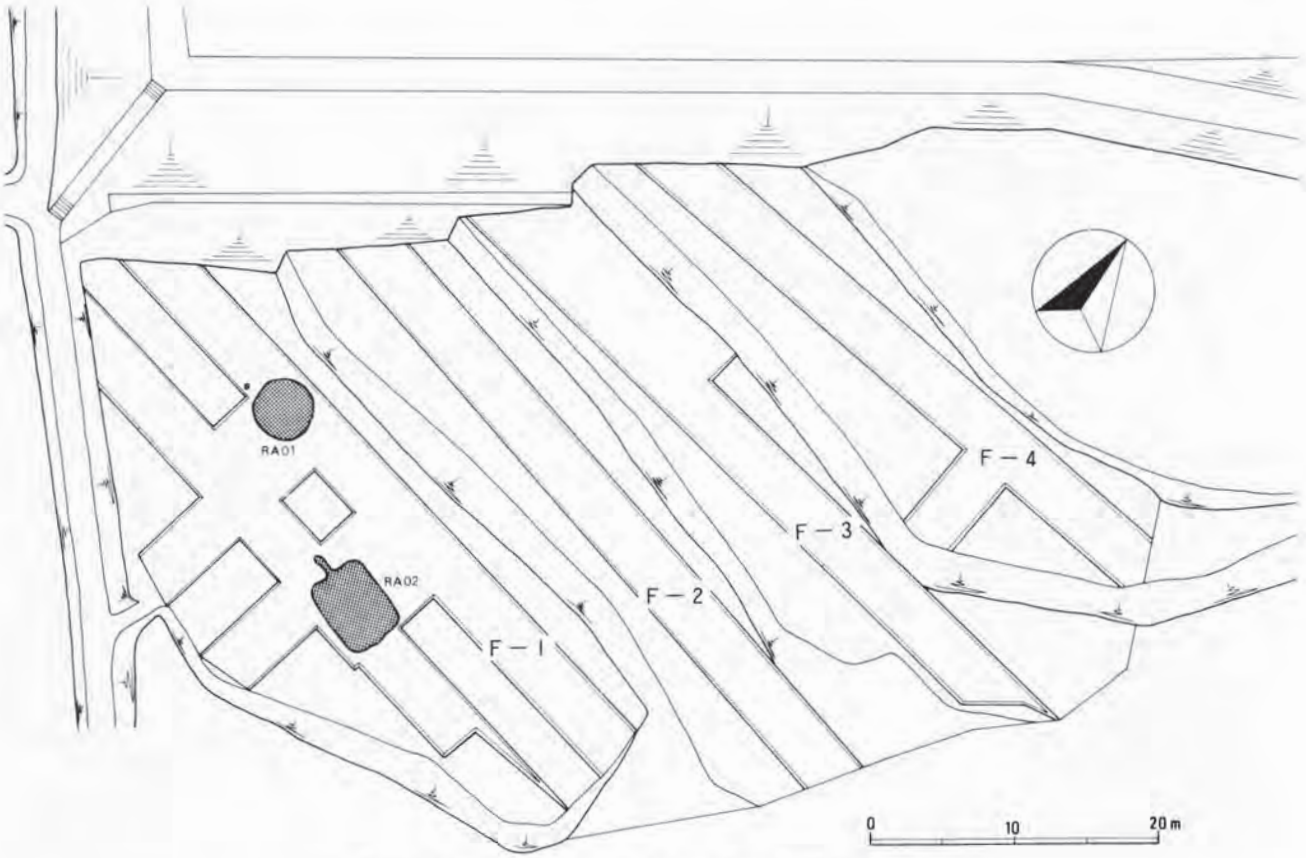


Fig. 29　Ak－03トレンチ設定図及び検出遺構

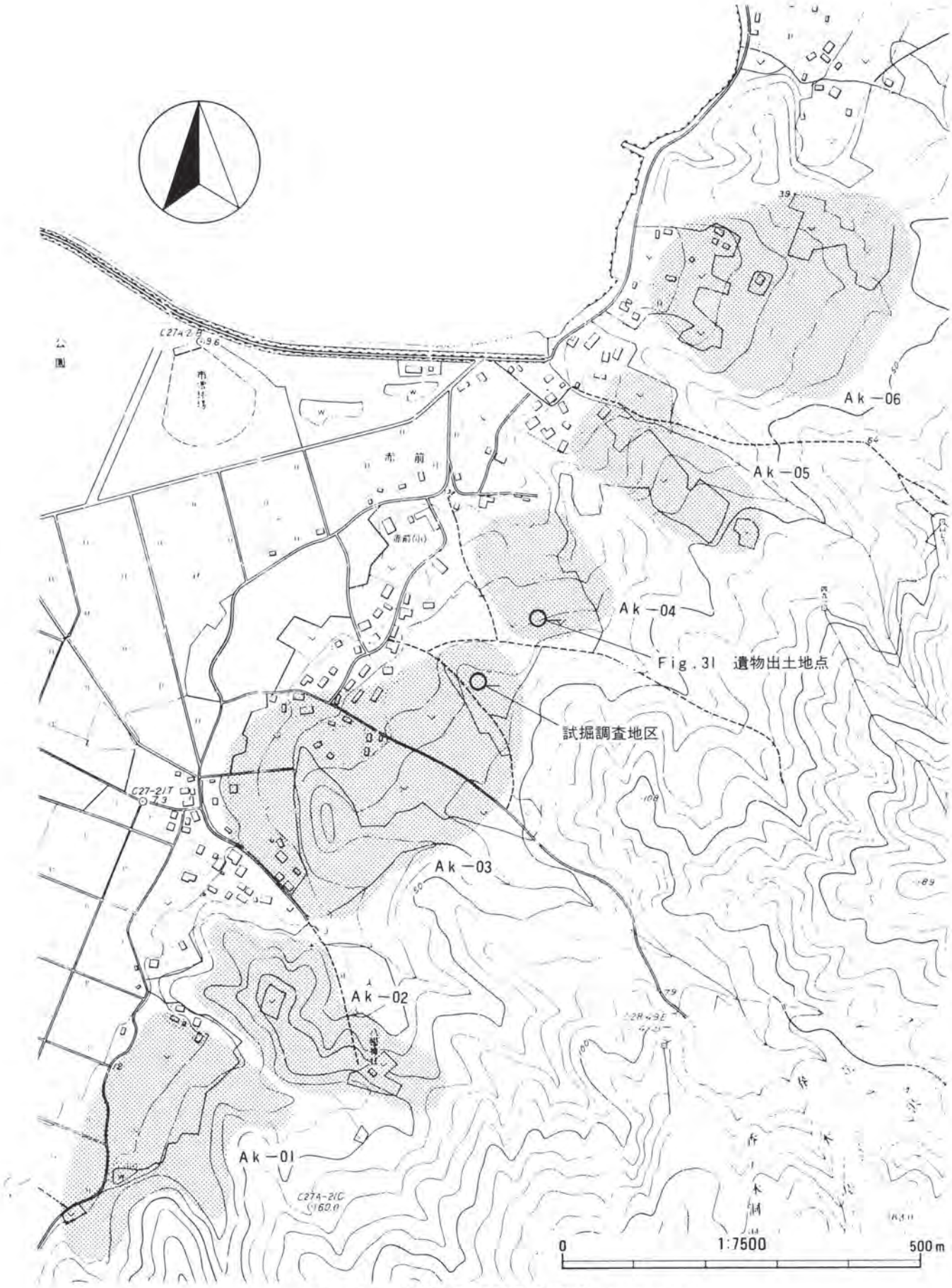
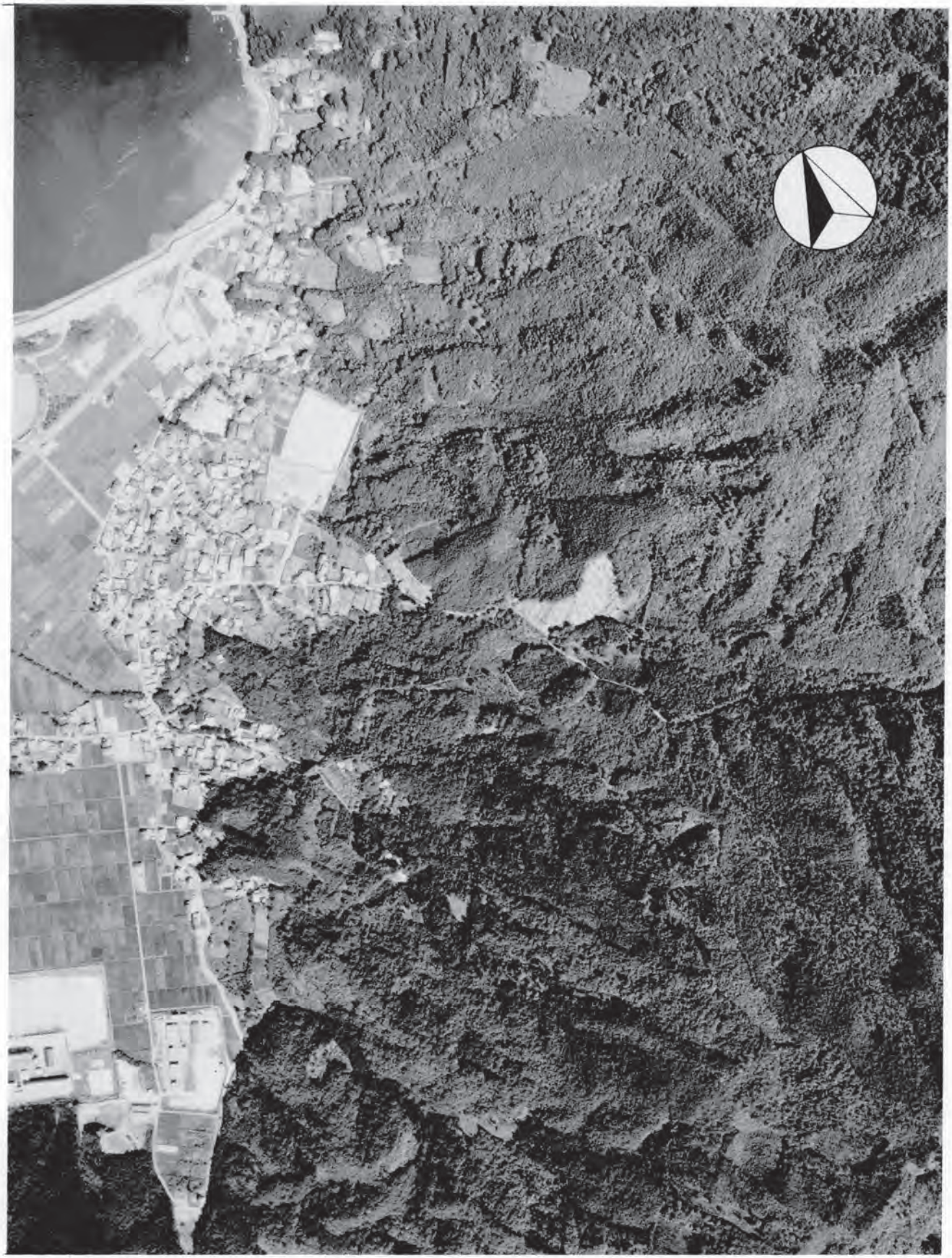


Fig. 30 赤前地区遺跡分布図（Akamae）



Photo．66　赤前地区（Akamae）

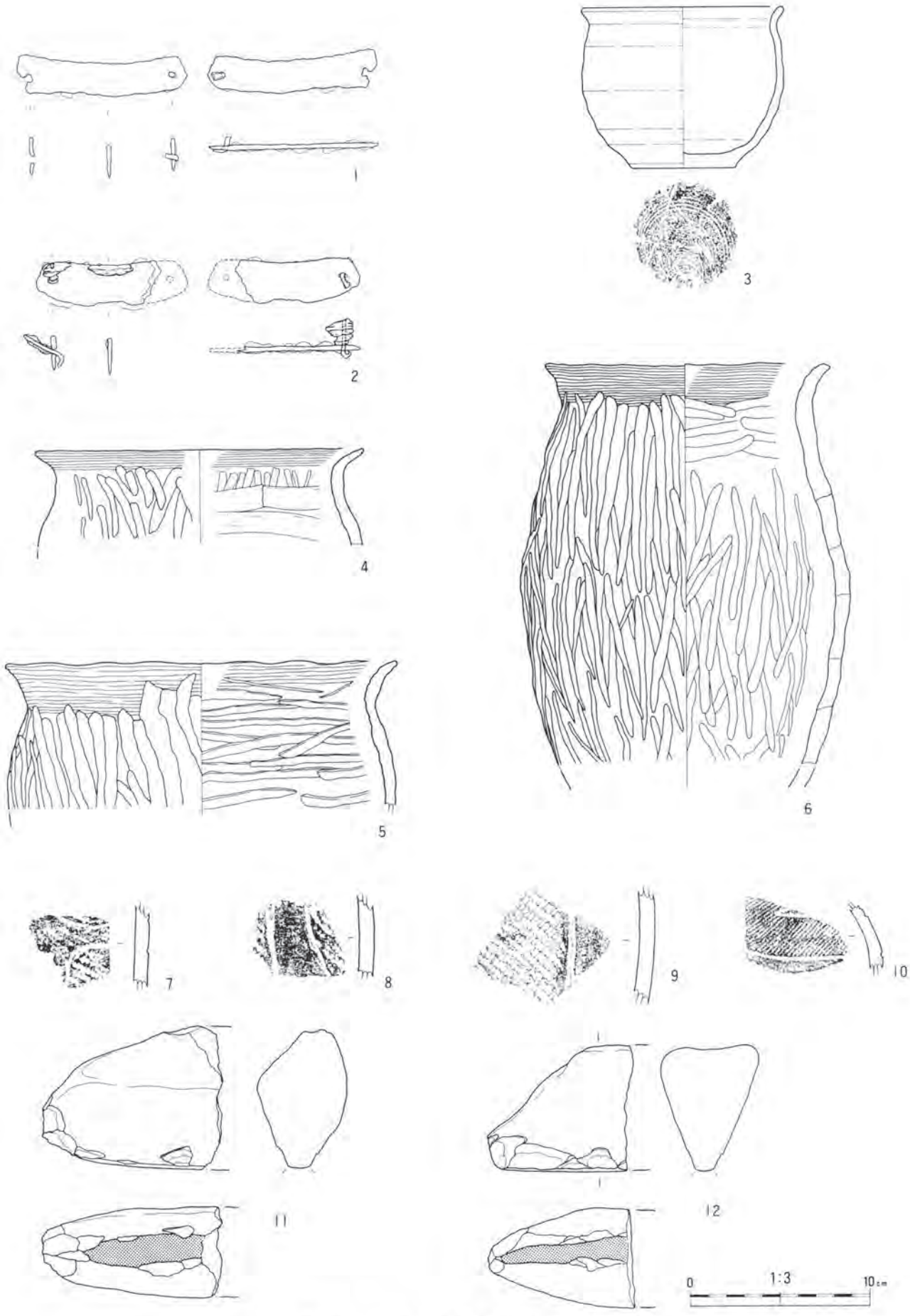
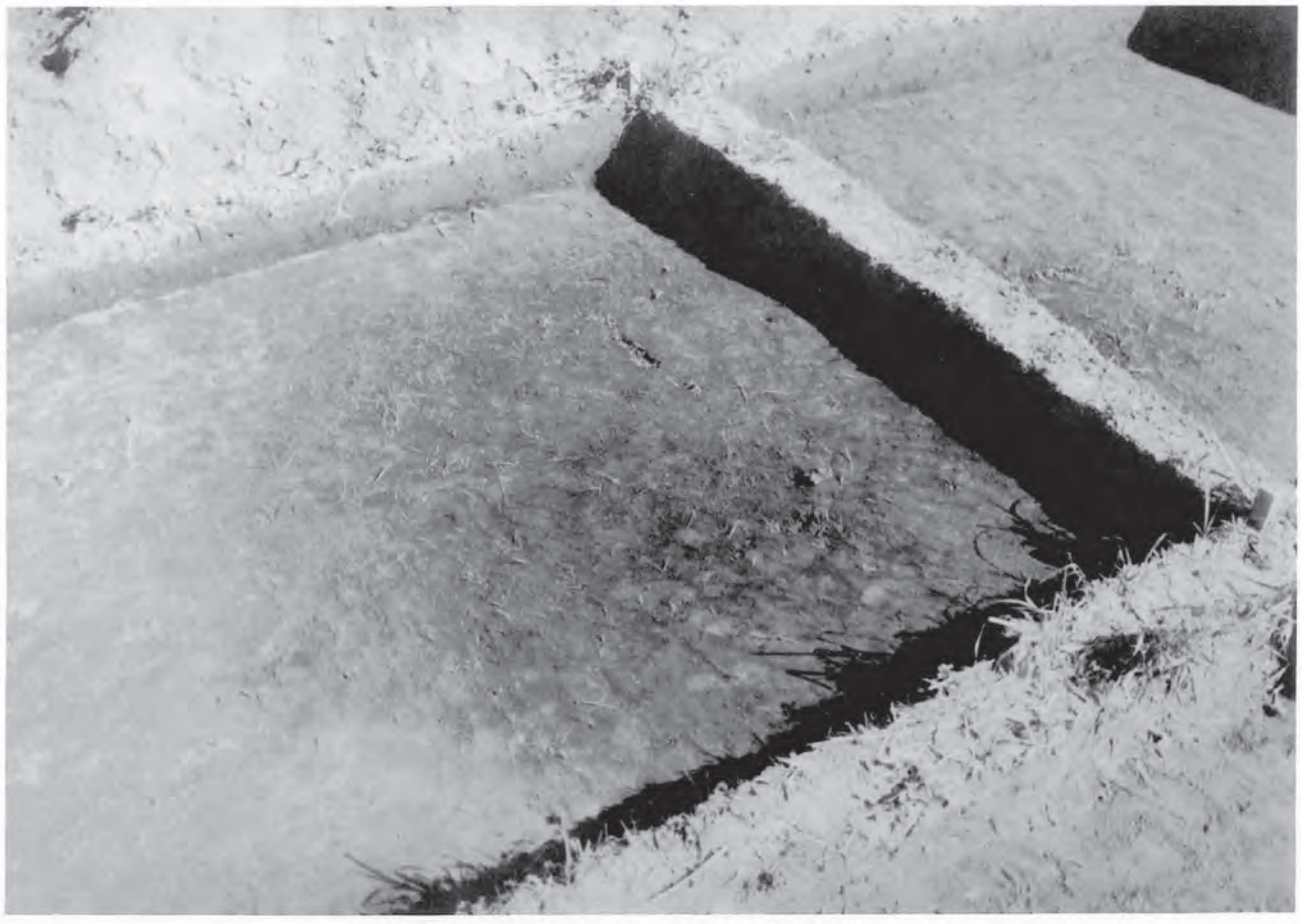


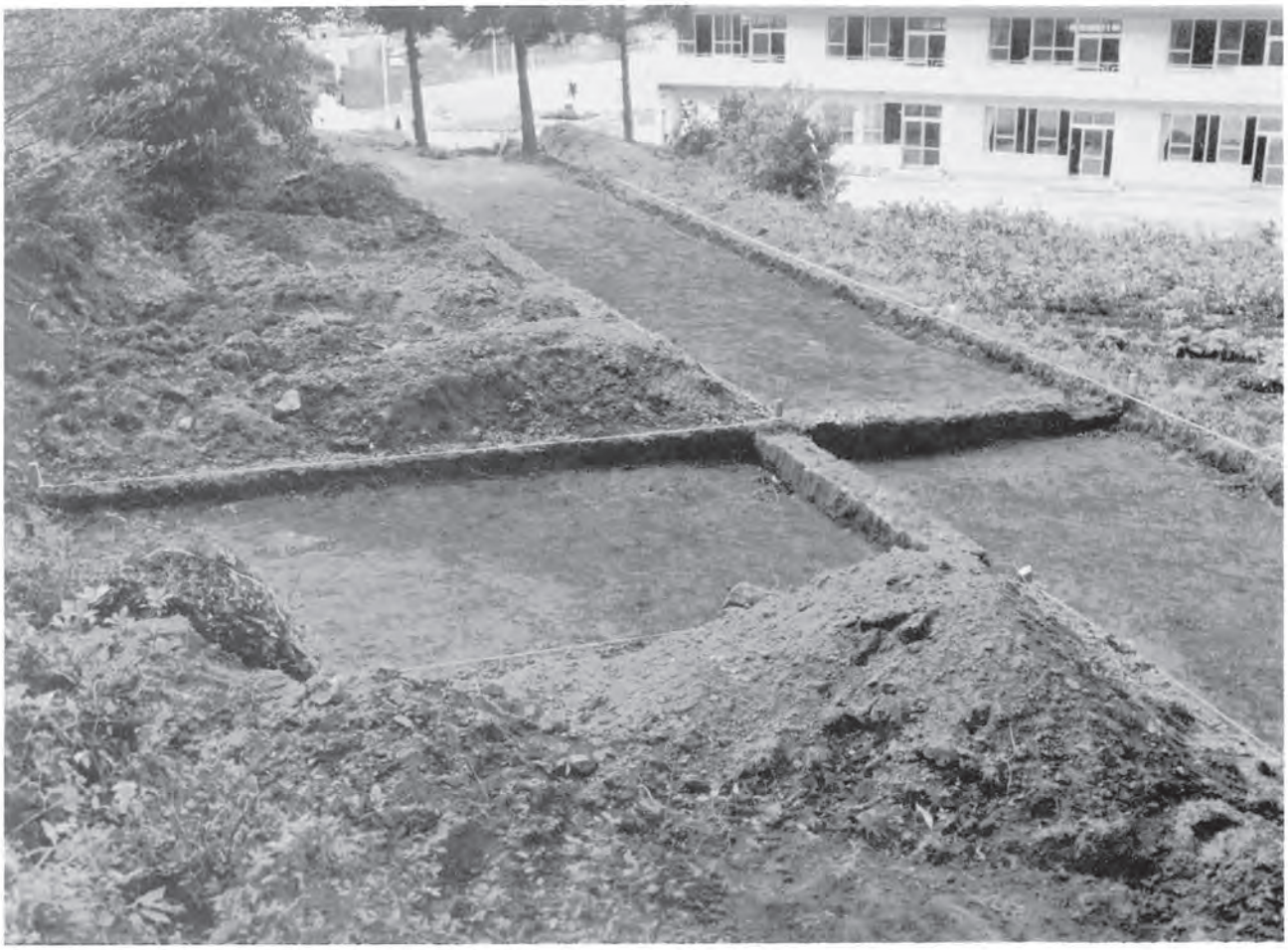
Fig. 31　赤前地区遺物（Ak－04）

Photo．67　Ak－03　遺構検出状況（F－I）



Photo．68　Ak－03　遺構検出状況（F－I）

Photo．69　Ak－03　トレンチ（F－2,F－3）



Photo．70　Ak－03　トレンチ（F－4）

8．重茂 館地区　（Omoe－Tate）

遺跡群構成

太平洋に面した重茂半島中央部に位置し、標高60～90ｍの台地上に重茂館遺跡群が存在する。(註１)　遺跡群は、重茂館跡のほか３地区の遺物集中区で構成され、縄文時代の早期、前期・中期・晩期の各時期の遺跡と中世（15世紀頃か）の山城が存在する。ＯＴ－01は重茂館跡で、二つの郭と帯郭・砦を配している。

遺　　物

採集遺物をFig.33に示す。 26は内外両面に縄文が施されており、縄文時代早期末葉の土器と考えられる。(ＯＴ－04より採集）また31はＯＴ－03より出土した土器であるが、縄文時代後期の所産と考えられる。

註１　重茂館遺跡群の館はこの地区の字名である。

9．千鶏・石浜地区（Chikei，Ishihama）

位　　置

山田湾に面した重茂半島南部の地域で、河川により開析された谷野とこれにより形成された浜のあるところに、現在の集落が形成されている。遺跡もほぼこの地域に集中しており、千鶏地区では５カ所、石浜地区では４カ所の遺跡が確認された。

千鶏地区

千鶏地区では胎土に繊維を含む縄文時代早期末ないし前期初頭の遺物と中期の遺物が多く採集された。Chi －01は 南に開く開析谷の西側に所在し、縄文時代早期の遺物が主体である。Chi －02は千鶏小学校南東部にあたり、海に面した南向き緩斜面に遺物が散布している。Chi －03は 標高50～70ｍの台地上にあり西側には沢が入っている。台地上は現在畑となっているが、遺物分布が極めて濃密で保存状況は良好である。遺物はほとんど縄文時代中期の土器で、分布状況や立地からこの時期の集落が存在する可能性が高く、学術的調査が望まれる。Chi －04は南に広がるなだらかな 斜面に存在し縄文時代中期の遺物が採集された。また重茂半島ではあまり見られない土師器も少量ながら散布していた。

石浜地区

石浜地区では４カ所の遺跡が確認されたが、地形的制約から比較的小規模な遺跡が点在している。 Ishi －02では 縄文時代後期の遺物が採集された。

Fig. 32 重茂 館地区遺跡分布図（Omoe－Tate）

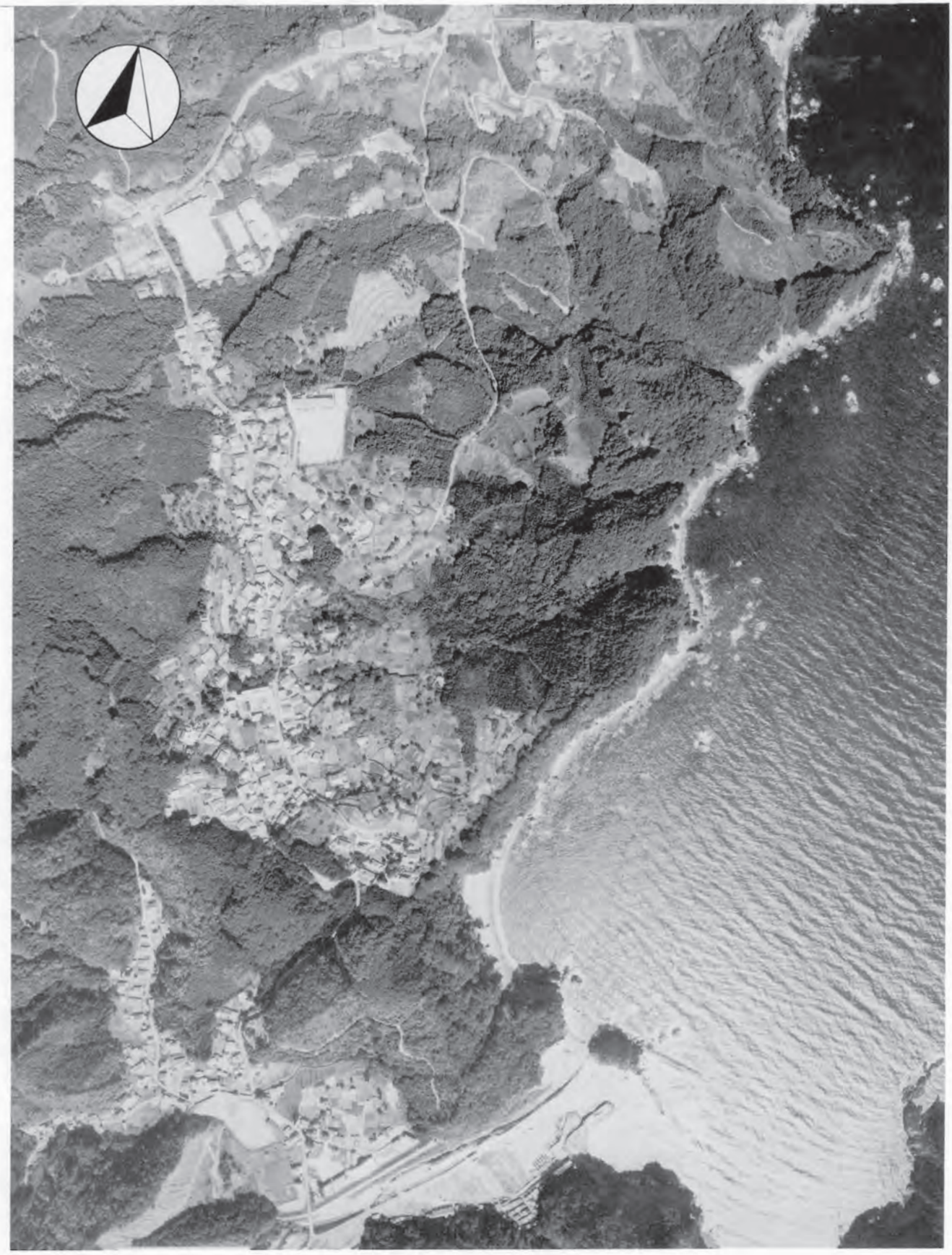
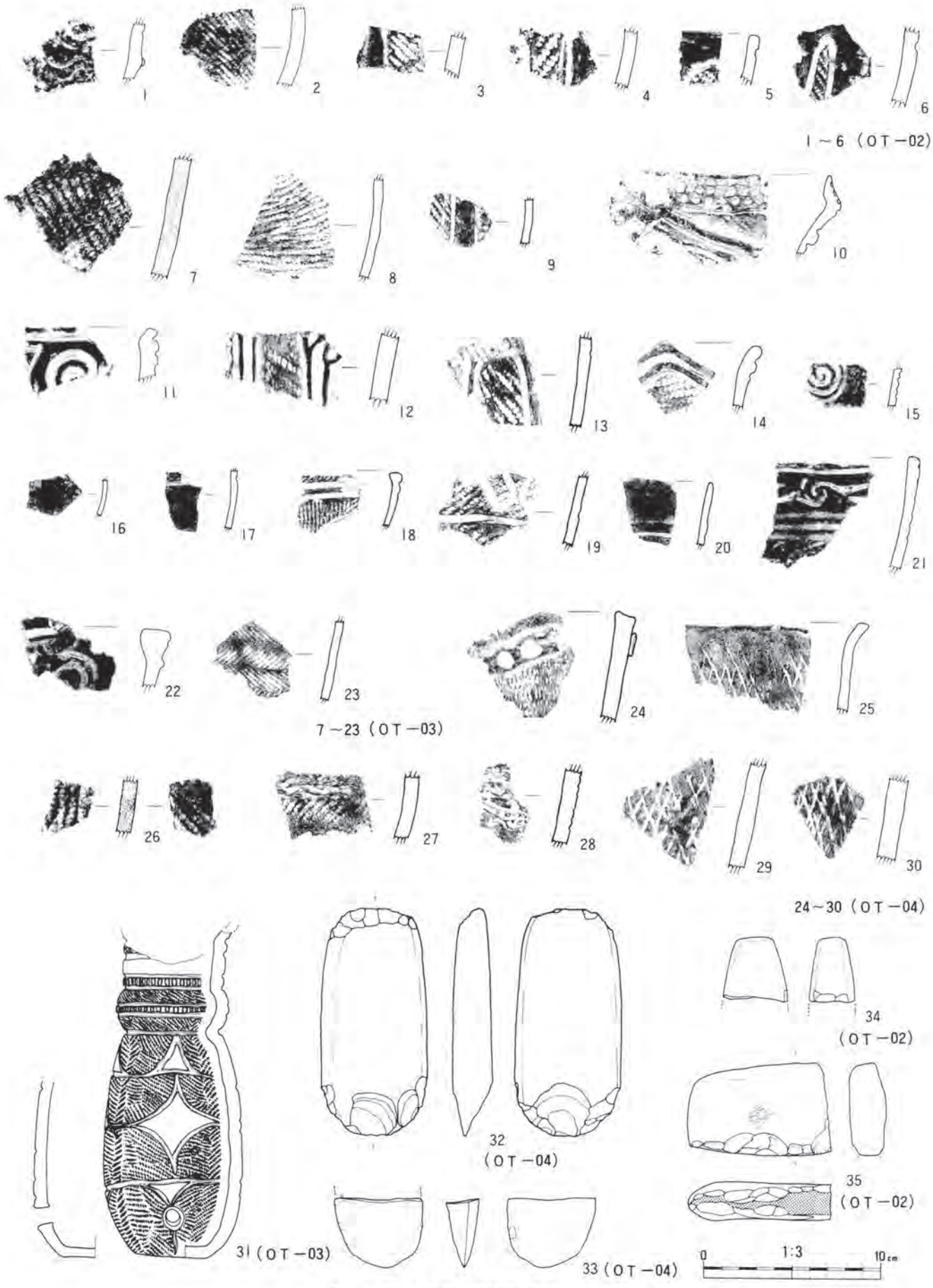


Photo. 71　重茂 館地区（Omoe－Tate）



Fig．33　重茂 館地区遺物

重茂 館地区遠景（南より）

Photo．72　重茂 館地区遺物

Fig. 34　千鶏・石浜地区遺跡分布図（Chikei, Ishihama）

Photo．73　千鶏石浜地区（Chikei，Ishihama）

Fig. 35 千鶏・石浜地区遺物

Photo．74　千鶏、石浜地区遺物

Photo．75　千鶏、石浜地区遺物

Photo . 76　Chi －02

Photo . 77　Chi －03

Photo . 78　Chi −04

Photo . 79　Ishi −02

宮古市埋蔵文化財調査報告書3

宮古市遺跡分布調査報告書1

Distribution of Archaeological Research Sites in Miyako

1983. 3

発　行　　岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号

印　刷　　プリント　ハナサカ
宮古市田の神一丁目2－32